

市原市 八幡

飯香岡八幡宮社務所日誌

昭和 20 年

平成 30 年 12 月

市原の古文書研究会

八幡史学館チーム

未定稿

「飯香岡八幡宮 日誌」昭和20年(1945) 社司=内田羊之助

月	日	曜	天候	項目
1	1	月	晴	午前10時歳旦祭礼、「レイテ」島根街祈願祭執行、内田社司奉仕、参列者多数ありし、参拝者多数
1	2	火		
1	3	水		元始祭、出兵者2名、光三来る、参拝者千葉市より多数来る
1	4	木	曇後晴	
1	5	金	晴後曇	
1	6	土	曇	
1	7	日		
1	8	月		
1	9	火		
1	10	水		
1	11	木		杉田氏来社
1	12	金		
1	13	土		
1	14	日		飯火祭、内田社司奉仕
1	15	月		月次祭、内田社司奉仕
1	16	火		
1	17	水		神祇会役員会を千葉神社社務所において開催、内田社司出席
1	18	木		
1	19	金		
1	20	土		大寒
1	21	日		
1	22	月		
1	23	火		
1	24	水		
1	25	木		
1	26	金		
1	27	土		空襲あり
1	28	日		市原郡部会幹会を大宮神社社務所にて開催、内田社司出席
1	29	月		昨日、内田社司不在に付きこの日月次祭の祝詞を奉奏
1	30	火		
1	31	水		
2	1	木		月次祭、内田社司奉仕
2	2	金		
2	3	土		節分、午後7時節分祭内田社司奉仕、卯日祭内田社司奉仕
2	4	日	北風強	杉本武次郎氏防空壕戦執行
2	5	月	北風やや なく	天羽氏来社
2	6	火		
2	7	水		
2	8	木		
2	9	金		
2	10	土		
2	11	日		配元節祭内田社司奉仕、佐倉五郎氏神前結婚式執行
2	12	月		
2	13	火		
2	14	水		
2	15	木		月次祭内田社司奉仕
2	16	金		明日の新年祭の準備をなす、激烈なる空襲あり
2	17	土		新年祭内田社司奉仕、午前10時新年祭々々式開始、供進使は町長代理唐澤俊博書記なり、参列者は市川石三、丸喜次郎の両氏なり、この日朝より激烈なる空襲あり、空襲中に祭典執行せり、この日時田、天羽両氏に祭典補助を依頼したしたるも両氏とも空襲のため来ることができず、この日内田社司一人にて祭典を執行せり、けだし空前のことなり
2	18	日	晴	空襲あり
2	19	月	晴	空襲あり
2	20	火		
2	21	水		この夜降雪尺余に及ぶ、けだし近年稀なりといふ
2	22	木		
2	23	金		五井町国民学校において市原郡氏子総代祭式練習会を開く、練習のため練習員11名、終つて講師の慰勞会を小千石に開く、講師は河崎祭務官、松井千葉神社局松井氏、来金の神職は海上、時田、小笠原、藤崎、早乙女の諸氏と余のみなり、大雪のため来会者はなく寂しきなり
2	24	土		
2	25	日		この夜降雪1尺より3尺に及ぶ、近年稀にみるところ
2	26	月		
2	27	火		
2	28	水		月次祭内田社司奉仕
3	1	木		月次祭内田社司奉仕
3	2	金		
3	3	土		
3	4	日		飯籠軍主計大岡市川幸一氏設備を奉町館にて執行、内田社司奉仕、時田、天羽、小田の3氏に補助を願う
3	5	月	晴曇後晴	市原郡神祇常会を社務所にて開催、県より屋野口、戸倉主事出席、県よりは時田、海上、杉田、早乙女、小田、天羽の諸氏出席
3	6	火		
3	7	水		
3	8	木		天羽氏来社
3	9	金		賈一来る
3	10	土		
3	11	日		御神輿餅付け画池田氏、山下氏、時田氏、手伝い、市川奥代子宿3年祭内田社司奉仕
3	12	月		
3	13	火		前夜祭内田社司奉仕
3	14	水		春祭大祭午前10時執行、参列者唐澤俊博書記、警部補、国民学校長、市川石三氏、丸喜次郎氏、植草辰五郎氏、なり、祭典補助は時田氏、早乙女氏の両氏、植名氏、池田常吉氏、池田長藏氏
3	15	木		

3	18	金	
3	17	土	
3	16	日	御神輿格納す、山下、両池田、椎名の諸氏手伝を依頼す
3	15	日	
3	14	日	
3	13	日	
3	12	日	
3	11	日	
3	10	日	
3	9	日	
3	8	日	
3	7	日	
3	6	日	
3	5	日	
3	4	日	
3	3	日	
3	2	日	
3	1	日	
4	31	土	定期預金書き替え中
4	30	金	月次祭内田社司事任、空襲 砲撃にも友軍1機観音町耕地に墜落、乗員1名惨死
4	29	土	朝午前3時空襲なり、午前8時に又空襲
4	28	日	警報あり
4	27	日	警報あり
4	26	日	警報あり
4	25	日	警報あり
4	24	日	警報あり
4	23	日	警報あり
4	22	日	警報あり
4	21	日	警報あり
4	20	日	警報あり
4	19	日	警報あり
4	18	日	警報あり
4	17	日	警報あり
4	16	日	警報あり
4	15	日	警報あり
4	14	日	警報あり
4	13	日	警報あり
4	12	日	警報あり
4	11	日	警報あり
4	10	日	警報あり
4	9	日	警報あり
4	8	日	警報あり
4	7	日	警報あり
4	6	日	警報あり
4	5	日	警報あり
4	4	日	警報あり
4	3	日	警報あり
4	2	日	警報あり
4	1	日	警報あり
5	31	日	定期預金書き替え中
5	30	日	定期預金書き替え中
5	29	日	定期預金書き替え中
5	28	日	定期預金書き替え中
5	27	日	定期預金書き替え中
5	26	日	定期預金書き替え中
5	25	日	定期預金書き替え中
5	24	日	定期預金書き替え中
5	23	日	定期預金書き替え中
5	22	日	定期預金書き替え中
5	21	日	定期預金書き替え中
5	20	日	定期預金書き替え中
5	19	日	定期預金書き替え中
5	18	日	定期預金書き替え中
5	17	日	定期預金書き替え中
5	16	日	定期預金書き替え中
5	15	日	定期預金書き替え中
5	14	日	定期預金書き替え中
5	13	日	定期預金書き替え中
5	12	日	定期預金書き替え中
5	11	日	定期預金書き替え中
5	10	日	定期預金書き替え中
5	9	日	定期預金書き替え中
5	8	日	定期預金書き替え中
5	7	日	定期預金書き替え中
5	6	日	定期預金書き替え中
5	5	日	定期預金書き替え中
5	4	日	定期預金書き替え中
5	3	日	定期預金書き替え中
5	2	日	定期預金書き替え中
5	1	日	定期預金書き替え中
6	31	日	定期預金書き替え中
6	30	日	定期預金書き替え中
6	29	日	定期預金書き替え中
6	28	日	定期預金書き替え中
6	27	日	定期預金書き替え中
6	26	日	定期預金書き替え中
6	25	日	定期預金書き替え中
6	24	日	定期預金書き替え中
6	23	日	定期預金書き替え中
6	22	日	定期預金書き替え中
6	21	日	定期預金書き替え中
6	20	日	定期預金書き替え中
6	19	日	定期預金書き替え中
6	18	日	定期預金書き替え中
6	17	日	定期預金書き替え中
6	16	日	定期預金書き替え中
6	15	日	定期預金書き替え中
6	14	日	定期預金書き替え中
6	13	日	定期預金書き替え中
6	12	日	定期預金書き替え中
6	11	日	定期預金書き替え中
6	10	日	定期預金書き替え中
6	9	日	定期預金書き替え中
6	8	日	定期預金書き替え中
6	7	日	定期預金書き替え中
6	6	日	定期預金書き替え中
6	5	日	定期預金書き替え中
6	4	日	定期預金書き替え中
6	3	日	定期預金書き替え中
6	2	日	定期預金書き替え中
6	1	日	定期預金書き替え中
7	31	日	定期預金書き替え中
7	30	日	定期預金書き替え中
7	29	日	定期預金書き替え中
7	28	日	定期預金書き替え中
7	27	日	定期預金書き替え中
7	26	日	定期預金書き替え中
7	25	日	定期預金書き替え中
7	24	日	定期預金書き替え中
7	23	日	定期預金書き替え中
7	22	日	定期預金書き替え中
7	21	日	定期預金書き替え中
7	20	日	定期預金書き替え中
7	19	日	定期預金書き替え中
7	18	日	定期預金書き替え中
7	17	日	定期預金書き替え中
7	16	日	定期預金書き替え中
7	15	日	定期預金書き替え中
7	14	日	定期預金書き替え中
7	13	日	定期預金書き替え中
7	12	日	定期預金書き替え中
7	11	日	定期預金書き替え中
7	10	日	定期預金書き替え中
7	9	日	定期預金書き替え中
7	8	日	定期預金書き替え中
7	7	日	定期預金書き替え中
7	6	日	定期預金書き替え中
7	5	日	定期預金書き替え中
7	4	日	定期預金書き替え中
7	3	日	定期預金書き替え中
7	2	日	定期預金書き替え中
7	1	日	定期預金書き替え中
8	31	日	定期預金書き替え中
8	30	日	定期預金書き替え中
8	29	日	定期預金書き替え中
8	28	日	定期預金書き替え中
8	27	日	定期預金書き替え中
8	26	日	定期預金書き替え中
8	25	日	定期預金書き替え中
8	24	日	定期預金書き替え中
8	23	日	定期預金書き替え中
8	22	日	定期預金書き替え中
8	21	日	定期預金書き替え中
8	20	日	定期預金書き替え中
8	19	日	定期預金書き替え中
8	18	日	定期預金書き替え中
8	17	日	定期預金書き替え中
8	16	日	定期預金書き替え中
8	15	日	定期預金書き替え中
8	14	日	定期預金書き替え中
8	13	日	定期預金書き替え中
8	12	日	定期預金書き替え中
8	11	日	定期預金書き替え中
8	10	日	定期預金書き替え中
8	9	日	定期預金書き替え中
8	8	日	定期預金書き替え中
8	7	日	定期預金書き替え中
8	6	日	定期預金書き替え中
8	5	日	定期預金書き替え中
8	4	日	定期預金書き替え中
8	3	日	定期預金書き替え中
8	2	日	定期預金書き替え中
8	1	日	定期預金書き替え中
9	31	日	定期預金書き替え中
9	30	日	定期預金書き替え中
9	29	日	定期預金書き替え中
9	28	日	定期預金書き替え中
9	27	日	定期預金書き替え中
9	26	日	定期預金書き替え中
9	25	日	定期預金書き替え中
9	24	日	定期預金書き替え中
9	23	日	定期預金書き替え中
9	22	日	定期預金書き替え中
9	21	日	定期預金書き替え中
9	20	日	定期預金書き替え中
9	19	日	定期預金書き替え中
9	18	日	定期預金書き替え中
9	17	日	定期預金書き替え中
9	16	日	定期預金書き替え中
9	15	日	定期預金書き替え中
9	14	日	定期預金書き替え中
9	13	日	定期預金書き替え中
9	12	日	定期預金書き替え中
9	11	日	定期預金書き替え中
9	10	日	定期預金書き替え中
9	9	日	定期預金書き替え中
9	8	日	定期預金書き替え中
9	7	日	定期預金書き替え中
9	6	日	定期預金書き替え中
9	5	日	定期預金書き替え中
9	4	日	定期預金書き替え中
9	3	日	定期預金書き替え中
9	2	日	定期預金書き替え中
9	1	日	定期預金書き替え中

			にて爆撃、千葉、八幡上空を襲って九十九里方面に脱走せり、被害の状況は未だ判明せざるも相当の罹災を被れるものがあるがごとし、主として先般来の焼け残り部分を攻撃したるものごとし
5	25	金	晴
5	24	土	
5	23	日	
5	22	日	
5	21	日	
5	20	日	
5	19	日	
5	18	日	
5	17	日	
5	16	日	
5	15	日	
5	14	日	
5	13	日	
5	12	日	
5	11	日	
5	10	日	
5	9	日	
5	8	日	
5	7	日	
5	6	日	
5	5	日	
5	4	日	
5	3	日	
5	2	日	
5	1	日	
6	31	日	
6	30	日	
6	29	日	
6	28	日	
6	27	日	
6	26	日	
6	25	日	
6	24	日	
6	23	日	
6	22	日	
6	21	日	
6	20	日	
6	19	日	
6	18	日	
6	17	日	
6	16	日	
6	15	日	
6	14	日	
6	13	日	
6	12	日	
6	11	日	
6	10	日	
6	9	日	
6	8	日	
6	7	日	
6	6	日	
6	5	日	
6	4	日	
6	3	日	
6	2	日	
6	1	日	
7	31	日	
7	30	日	
7	29	日	
7	28	日	
7	27	日	
7	26	日	
7	25	日	
7	24	日	
7	23	日	
7	22	日	
7	21	日	
7	20	日	
7	19	日	
7	18	日	
7	17	日	
7	16	日	
7	15	日	
7	14	日	
7	13	日	
7	12	日	
7	11	日	
7	10	日	
7	9	日	
7	8	日	
7	7	日	
7	6	日	
7	5	日	
7	4	日	
7	3	日	
7	2	日	
7	1	日	
8	31	日	
8	30	日	
8	29	日	
8	28	日	
8	27	日	
8	26	日	
8	25	日	
8	24	日	
8	23	日	
8	22	日	
8	21	日	
8	20	日	
8	19	日	
8	18	日	
8	17	日	
8	16	日	
8	15	日	
8	14	日	
8	13	日	
8	12	日	
8	11	日	
8	10	日	
8	9	日	
8	8	日	
8	7	日	
8	6	日	
8	5	日	
8	4	日	
8	3	日	
8	2	日	
8	1	日	
9	31	日	
9	30	日	
9	29	日	
9	28	日	
9	27	日	
9	26	日	
9	25	日	
9	24	日	
9	23	日	
9	22	日	
9	21	日	
9	20	日	
9	19	日	
9	18	日	
9	17	日	
9	16	日	
9	15	日	
9	14	日	
9	13	日	
9	12	日	
9	11	日	
9	10	日	
9	9	日	
9	8	日	
9	7	日	
9	6	日	
9	5	日	
9	4	日	
9	3	日	
9	2	日	
9	1	日	

8	3	金	防衛資料に關し地方事務所に行く
8	4	土	
8	5	日	午前5時八幡宮社解散式挙行
8	6	月	昨日より3日間国民軍訓練執行
8	7	火	
8	8	水	午前3時葦刈神前祭執行
8	9	木	
8	10	金	午前6時より11時まで空襲訓練
8	11	土	宮吉長門氏令息輝隆午前執行、午後東成自動車工業株式会社八幡工場修繕式挙行、いずれも内田社司事任
8	12	日	伊藤孫八氏死亡に付弔問す
8	13	月	空襲午前6時より
8	14	火	
8	15	水	月次祭内田社司事任、山下廣二氏令嗣死亡に付弔問、この日正午天皇陛下御自ら放送あり、戦利あらず和を結ぶとのことなりし由、足掛け9年の戦争もここにあつて終りを告げることとなりぬ
8	16	木	出雲せんとして汽車通員のため乗車することせず
8	17	金	出雲す、初めて焼餅を見る
8	18	土	鈴木内閣総辞職、後継内閣は東久通官後彦王殿下を首相として成立す
8	19	日	
8	20	月	
8	21	火	
8	22	水	
8	23	木	
8	24	金	英米撃滅、敵國降伏、武運長久の祈願札を撤去す
8	25	土	
8	26	日	敵國降伏の石の剣を撤去す
8	27	月	
8	28	火	月次祭内田社司事任
8	29	水	
8	30	木	
8	31	金	和田、時田両氏来社
9	1	土	月次祭内田社司事任
9	2	日	
9	3	月	
9	4	火	時田氏来社
9	5	水	時田氏葬儀に關し各口口へ通知出す
9	6	木	旧八月朔日なるをもつて秋季大祭に關する協議会を氏子惣代祭典掛を招集して開催、御神輿渡御その他祭典に關し、一応警察署長の意見を聞き、協議の結果本年は御神輿渡御その他祭典に關しすべて一切を見合わせるることとし、ただ儀式のみ厳肅に執行することに決し、散会、けだし米軍進駐に關し、事故を未然に防ぐの意に出でたるによる
9	7	金	霧
9	8	土	
9	9	日	
9	10	月	時田正秋氏葬儀に付五井へ出張
9	11	火	神祇会役員会に付、護國神社へ出張
9	12	水	
9	13	木	
9	14	金	
9	15	土	月次祭内田社司事任
9	16	日	
9	17	月	この日戦争終結報告祭予定のところが20日に変更なりたるをもつて御神輿を飾りつけることに変更、時田氏、高池田氏、山下氏を依頼して飾りつけ、時田氏は戦争終結報告祭に助勤に来りたるなり、天羽氏は風邪の気味とのことにて差に来らず、しかし大したことはなさそうなり
9	18	火	秋季大祭の準備をなし氏子惣代各官衙へ報告祭及び例祭の通知を出す
9	19	水	午後8時前夜祭内田社司事任
9	20	木	午前10時秋季大祭執行、県よりは供進使として河崎祭務官、随員1名、参列者町長市川三三氏、中島助役、市原市地方事務所長、警察署長、市川三三氏、丸賀次郎氏、小出伝次郎氏、五所区長今井千代吉氏、榎草屋五郎氏その他、右は数名、祭典のごとく終了、直金の儀なり、神輿助勤者時田末吉氏、小田香口氏、早乙女登、海上口口、和田口口の諸氏、天羽氏は病氣のため来らず、昼後午後1時より戦争終結報告祭の儀に初まり祭典前儀の通り執行、午後3時ころ終了せり、簡単な直金の儀ありて河崎祭務官の一行は明日における高瀬神社の報告祭のため本社務所へ泊すべく4時の汽車にて出発せり
9	21	金	この秋季大祭は戦争終結後の大祭なるにつき厳して御神輿の渡御を見合わせ、その後余興及びのぼり旗、軒燈籠等一切取りやめ、ほとんど平日と異なる状態なるをもつて参拝者稀無と見いだすも相当の人出ありたる模様なるも戦争中の例祭とは比較すべくもあらざる状態なり、近時東風、急激は寒業、自らは座敷の間置しをなし、仕出し屋ほとんどなく、直金の口当て差し支えやむをえず、永野氏より鯛を1貫目ほど前もつて注文し置き、社務所にて鯛めしとあさりの汁にて直金に出すこととなりかえつて都合よろしきようなり
9	22	土	上り祭、内田社司事任
9	23	日	午後7時地主会を社務所にて開く、本年は不作相勘引き、供出米は一度地主納付することし金納は一切取らざることに決定せり、
9	24	月	秋季皇皇祭内田社司事任
9	25	火	故市川孝一氏一年祭に付内田社司出張奉仕
9	26	水	市川氏宅にて昼餐に口ばる、樽浪来社
9	27	木	内田社司風邪
9	28	金	月次祭内田社司事任
9	29	土	明日日曜日なるをもつて定期預金証書書き換え銀行へ出す、日増しに冷気加わるこの社務所にて越冬できるや否
9	30	日	
10	1	月	月次祭内田社司事任、地主会を社務所にて開く
10	2	火	霧
10	3	水	
10	4	木	朝早乙女君来る
10	5	金	杉本氏幼女神輿内田社司事任
10	6	土	
10	7	日	
10	8	月	境内に農業会主催に係る古川ロッパ一産の芝居開催、しかし雨天のため中止
10	9	火	雨
10	10	水	雨
10	11	木	頭日の降雨、四日間に及ぶ
10	12	金	戦争より衣類、布匹送り来る
10	13	土	戦争より送り来る荷物整理する
10	14	日	大坂商船局来る
10	15	月	麻痺へ文通、月次祭内田社司事任

10	16	火	
10	17	水	神嘗祭内田社司事任
10	18	木	
10	19	金	内田社司千葉市出張
10	20	土	雨
10	21	日	雨
10	22	月	雨
10	23	火	雨
10	24	水	雨
10	25	木	晴
10	26	金	
10	27	土	
10	28	日	月次祭内田社司事任
10	29	月	
10	30	火	
10	31	水	雨
11	1	木	月次祭内田社司事任、五井町大宮神社例祭に付、内田社司補助のため出張
11	2	金	池田常吉氏五井木村会社へ行く
11	3	土	明治節内田社司事任
11	4	日	
11	5	月	晴
11	6	火	
11	7	水	神祇会役員会にて護國神社々務所に内田社司出席、池田常吉氏五井木村会社出張所に行く
11	8	木	内田社司村田の木材会社出張所加藤方に行く、要領を得ず材木には困却す
11	9	金	
11	10	土	
11	11	日	神祇会市原郡部会を大宮神社々務所にて開催、内田社司事任
11	12	月	夜農業会役員会を社務所にて開く、夜漁業組合樓上にて地主および小作人会を開く
11	13	火	慶幸来る、夜漁業組合樓上にて地主および小作人会を開く
11	14	水	
11	15	木	月次祭内田社司事任、刀剣類池田常吉氏方に預ける
11	16	金	
11	17	土	米兵神社の刀剣類類調査に来る
11	18	日	
11	19	月	
11	20	火	天羽氏櫓を持ち来たり見る
11	21	水	新嘗祭の類文を撰す、案内状を出す
11	22	木	終日新嘗祭の準備をなす
11	23	金	午前10時新嘗祭執行、供進使は八幡町助役中島三郎氏、参列者は市川三三氏、丸賀次郎氏、輪田取入役、野城国民学校校長、八幡宿駅長の諸氏、助勤は時田末吉、天羽一栄の両氏、この日難なる好天気にて万事都合よかりし、今日神社制度改定の時期、供進使の制度もあるいはこれが最後かとも思われる、米政府は非常に皇室中心のこの神社制度をきらわるやに見受けらる、それが為なるか近時参列者の激減を来したる模様なり、明治神宮、香取神宮も皆しかりかたということである
11	24	土	大宮神社新嘗祭に付、内田社司五井町大宮神社へ出張
11	25	日	
11	26	月	
11	27	火	丸賀次郎氏来社
11	28	水	月次祭内田社司事任、時田氏へ木材の儀に付き依頼
11	29	木	雨
11	30	金	
12	1	土	月次祭内田社司事任
12	2	日	
12	3	月	
12	4	火	急に朝寒くなる
12	5	水	晴
12	6	木	晴
12	7	金	
12	8	土	小林昌春、同春江氏の媒介による鈴木正作、中村康津子の神前新嘗式執行、内田社司事任
12	9	日	晴
12	10	月	
12	11	火	
12	12	水	
12	13	木	
12	14	金	
12	15	土	月次祭内田社司事任
12	16	日	
12	17	月	神社を国家より分離するという重大司令発表せらる
12	18	火	近衛文相公自決の報発表せらる。惜しめても尚余りあることなり、遺憾の極めなり
12	19	水	小作米の納付に付困る、本年のように困りたることなし
12	20	木	小作米の処分には困る、加うるに百種の休んでいるのには一層の困苦を加う
12	21	金	大蔵省大部分取りに来て配布す
12	22	土	冬至
12	23	日	
12	24	月	近來極寒寒業
12	25	火	大正天皇祭内田社司事任
12	26	水	ただ忙忙としていそがしい、本年のごときは小作米のハタ米取入れのため非常に困む、ことに百種の休みたるのにはいかんともし難い
12	27	木	
12	28	金	月次祭内田社司事任
12	29	土	
12	30	日	
12	31	月	午後2時大歳式執行、参列者1名もなし、夜8時除夜祭執行、いずれも内田社司事任、この夜本職を閉さず、ただなんらなすもなく1年を過ごしめ、しかし昭和20年は8月15日をもって終に滅びぬ一等国と自称したるもの遂に六等國、七等國となり下がらぬ、将来いかになり行くものなりや見立たす

日誌

飯香云々
陽
社務所

一、金田正太郎
 二、金田正太郎
 三、金田正太郎
 四、金田正太郎
 五、金田正太郎
 六、金田正太郎
 七、金田正太郎
 八、金田正太郎
 九、金田正太郎
 十、金田正太郎

一七

18年 1/1~1/5
 19年 1/1~1/5, 12/24~12/31
 20年 1/1~1/23 3/8~12/31
 21年 1/1 12/11~12/31
 22年 1/1~~~3/24~~ 2/24~3/24
 23年 8/13~8/28
 24年
 25年

一月三日 四時 眠
 一月四日 四時 眠 三山の歌を言ふ
 一月五日 六時 眠
 一月六日 八時 眠 真実を
 一月七日 八時 眠 及内政部長来相
 一月八日 八時 眠 及内政部長来相
 一月九日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十一日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十二日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十三日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十四日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十五日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十六日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十七日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十八日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十九日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十一日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十二日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十三日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十四日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十五日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十六日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十七日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十八日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十九日 八時 眠 及内政部長来相
 一月三十日 八時 眠 及内政部長来相

一月十一日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十二日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十三日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十四日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十五日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十六日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十七日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十八日 八時 眠 及内政部長来相
 一月十九日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十一日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十二日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十三日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十四日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十五日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十六日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十七日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十八日 八時 眠 及内政部長来相
 一月二十九日 八時 眠 及内政部長来相
 一月三十日 八時 眠 及内政部長来相

一月二十七日 人吉

一月二十七日 五ノ

一月二十七日 市名

一月二十九日 月曜

一月三十日 水曜

二月一日 木曜

二月二日 金曜

二月三日 土曜

二月四日 日曜

二月五日 月曜

二月六日 火曜

二月七日 水曜

二月八日 木曜

二月九日 金曜

二月十日 土曜

二月十一日 日曜

二月十二日 月曜

二月十三日 火曜

二月十四日 水曜

二月十五日 木曜

二月十六日 金曜

二月十七日 土曜

一月二十七日 月曜

二月一日 木曜

二月二日 金曜

二月三日 土曜

二月四日 日曜

二月五日 月曜

二月六日 火曜

二月七日 水曜

二月八日 木曜

二月九日 金曜

二月十日 土曜

二月十一日 日曜

二月十二日 月曜

二月十三日 火曜

二月十四日 水曜

二月十五日 木曜

二月十六日 金曜

二月十七日 土曜

二月十八日 日曜

二月十九日 月曜

二月二十日 火曜

二月二十一日 水曜

二月二十二日 木曜

二月二十三日 金曜

二月二十四日 土曜

二月二十五日 日曜

二月二十六日 月曜

二月二十七日 火曜

二月二十八日 水曜

二月二十九日 木曜

二月三十日 金曜

三月一日 土曜

三月二日 日曜

三月三日 月曜

三月四日 火曜

三月五日 水曜

三月六日 木曜

三月七日 金曜

三月八日 土曜

三月九日 日曜

三月十日 月曜

三月十一日 火曜

三月十二日 水曜

三月十三日 木曜

三月十四日 金曜

三月十五日 土曜

三月十六日 日曜

三月十七日 月曜

三月十八日 火曜

三月十九日 水曜

日八 木曜 大田神社

三月九日 金曜 大田神社

三月十日 土曜

三月十一日 月曜 大田神社 午前八時 午後二時

三月十二日 火曜

三月十三日 水曜

三月十四日 木曜 前夜祭内田神社

三月十五日 金曜 春祭大田神社 午前八時 午後二時

三月十六日 土曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月十七日 日曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月十八日 月曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

梅田、大田神社、大田神社

三月十九日 金曜

三月二十日 土曜

三月二十一日 日曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月二十二日 月曜

三月二十三日 火曜

三月二十四日 水曜

三月二十五日 木曜

三月二十六日 金曜

三月二十四日 土曜

三月二十五日 日曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月二十六日 月曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月二十七日 火曜

三月二十八日 水曜

三月二十九日 木曜 八幡野書道会 午後二時 大田神社

三月三十日 金曜 大田神社 午前八時 午後二時

三月三十一日 土曜

三月三十一日 日曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月三十一日 月曜

三月三十一日 火曜

三月三十一日 土曜 大田神社 午前八時 午後二時

三月三十一日 日曜

三月三十一日 月曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月三十一日 火曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月三十一日 水曜

三月三十一日 木曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月三十一日 金曜

三月三十一日 土曜

三月三十一日 日曜 夜祭大田神社 午前八時 午後二時

三月三十一日 月曜

三月三十一日 火曜

三月三十一日 水曜

三月三十一日 木曜

三月三十一日 金曜

三月三十一日 土曜

三月三十一日 日曜

三月三十一日 月曜

三月三十一日 火曜

三月三十一日 水曜

四月七日 土曜 警報あり

四月八日 日曜 警報三四

引率軍あり。天のありき

敵軍の増進をたすけしことあり。幸ひし。増えし。あり。

四月九日 月曜 敵軍の内用成主

四月十日 火曜 雨 沖繩本島敵上陸決戦今や最高潮に達す

我野攻隊猛烈な進行あり。極む。どうかお望みし。頼む

執拗あり。敵軍に。殲滅せしめんとす。祈し

四月十一日 水曜 警報本島警備と係り念はる。下口

四月十二日 木曜 出兵一名

豊田解合隊司令長官訓令の冒頭。皇國の隆替繫り

本隊闘つた。たとひ敵軍百歩降りし。とも。最善を盡し。敵を殲

滅せよ。各部隊。特攻隊。決死奮戦。身を以て

皇國の復讐。礎となすべし。と。沖繩本島の攻防。敵

軍。皇國安危の令。吾人は。皇軍奮闘。を。待つ。月。も

極む。切なり。

敵。制海制空権を。取ら。れた。今日。敵。戦車。を。防禦。す。の

方。法。あり。を。如。ば。甚。む。の。長。き。は。な。し。

四月十三日 金曜 自衛隊。下。は。な。し。と。し。御。守。り。は。な。し。

四月十四日 土曜 八。二。五。二。七。三。の。法。あり。

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

四月十六日 月曜

昨日。敵機は。約。二百機。の。大。編隊。を。以。て。蒲。田。川。の。方。へ。工。場。を。襲

撃。た。り。し。八。機。は。燃。焼。し。た。り。し。火。の。も。見。え。し。と。傳。へ。ら。れ。し。

敵。日。出。時。に。大。宮。田。所。を。襲。撃。し。た。り。し。と。傳。へ。ら。れ。し。敵。機。は。一。機。は。な

の。外。何。れ。も。な。し。と。傳。へ。ら。れ。し。

四月十七日 火曜

天。の。氣。は。晴。れ。後。は。雨。あり

美。濃。市。の。村。に。在。り。し。敵。機。は。一。機。は。な。し。と。傳。へ。ら。れ。し。中。来。り。其。の。方。向。は。な

四月十八日 水曜

四月十九日 木曜

四月二十日 金曜

四月二十一日 土曜

四月二十二日 日曜

四月二十三日 月曜

四月二十四日 火曜

四月二十五日 水曜

四月二十六日 木曜

四月二十七日 金曜

四月二十八日 土曜

四月二十九日 日曜

四月三十日 月曜

五月一日 火曜

五月二日 水曜

五月三日 木曜

五月四日 金曜

五月五日 土曜

五月六日 日曜

五月七日 月曜

五月八日 火曜

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

警報あり

五月七日 月曜
五月八日 火曜

東京土曜午今般裁採三手機と五丁機九九里方回り上は
八幡上空を機銃掃射あり北多山平京尾一掃煙火其地
此處、千早方砲あり火災を起し左、機銃あり
八幡上空を機銃掃射あり二之在淺野五井より機銃あり
此名乃、機銃ありをせしむ、機銃あり
海軍の大砲も其地二丁の、機銃七八軒 煙火あり、其地、機銃あり
お更中より機銃あり北多山の機銃あり、機銃あり、機銃あり
機銃あり

五月九日 水曜

獨逸金部は、海軍中隊隊形、金く空くせしむ
北多山、機銃あり、北多山、機銃あり、北多山、機銃あり
下引、機銃あり、機銃あり、機銃あり、機銃あり、機銃あり
機銃あり、機銃あり、機銃あり、機銃あり、機銃あり、機銃あり
五月十日 木曜
五月十一日 金曜

五月十日 土曜 雨 去る者一
五月十一日 日曜 曇 出る一
五月十二日 月曜 曇 出る二
五月十三日 火曜 曇 出る二

五月十四日 水曜 曇 出る二
五月十五日 木曜 曇 出る二
五月十六日 金曜 曇 出る二
五月十七日 土曜 曇 出る二
五月十八日 日曜 曇 出る二
五月十九日 月曜 曇 出る二
五月二十日 火曜 曇 出る二
五月二十一日 水曜 曇 出る二
五月二十二日 木曜 曇 出る二
五月二十三日 金曜 曇 出る二
五月二十四日 土曜 曇 出る二
五月二十五日 日曜 曇 出る二
五月二十六日 月曜 曇 出る二
五月二十七日 火曜 曇 出る二
五月二十八日 水曜 曇 出る二
五月二十九日 木曜 曇 出る二
五月三十日 金曜 曇 出る二

五月十七日 木曜

五月十八日 土曜 雨 出る二
五月十九日 日曜 曇 出る二
五月二十日 月曜 曇 出る二
五月二十一日 火曜 曇 出る二
五月二十二日 水曜 曇 出る二
五月二十三日 木曜 曇 出る二
五月二十四日 土曜 曇 出る二
五月二十五日 日曜 曇 出る二
五月二十六日 月曜 曇 出る二
五月二十七日 火曜 曇 出る二
五月二十八日 水曜 曇 出る二
五月二十九日 木曜 曇 出る二
五月三十日 金曜 曇 出る二

五月十八日 月曜 月曜 月曜 月曜 月曜

台議方の短敵軍種新種は河を越行不意に来たがその

終に北に控る 四の義勇隊は終に北に控る

午後二時 新敵軍一隊は北に控る

新敵軍九隊の物を北に控る

五月二十九日 火曜 台議方の短敵軍種新種は河を越行不意に来たがその

終に北に控る 四の義勇隊は終に北に控る

午後二時 新敵軍一隊は北に控る

新敵軍九隊の物を北に控る

五月二十九日 火曜 台議方の短敵軍種新種は河を越行不意に来たがその

五月三十日 水曜

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

五月三十一日 木曜

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

六月一日

六月一日 金曜 月曜 月曜 月曜 月曜

六月二日 土曜 出兵五台

六月三日 日曜 出兵二台

六月四日 月曜 出兵二台

六月五日 火曜 出兵一隊 横河津に到着

六月六日 水曜 珍しく雨

六月七日 木曜 出兵五台 早乙女式

六月八日 金曜

六月九日 土曜 出兵二台

六月十日 日曜

六月十一日 月曜

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

六月十二日 火曜

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

昨日未明に敵機は五台機が所を横切ると云ふ

田中三郎

田中三郎

七月七日 土曜

井内田社司家族を引連水社事務所へ来り

七月八日 日曜

内田社司家族を引連水省令社事務所へ滞在の見込
昨日の戦災も千歳社社、復國社社焼失したと云ふ

七月九日 月曜

七月十日 火曜

七月十一日 水曜

七月十二日 木曜

七月十三日 金曜 大雨、連日空襲警報

七月十四日 土曜

七月十五日 日曜 出立三夜 月夜余内田社事務所

七月十六日 月曜 出立三夜

七月十七日 火曜 雨

七月十八日 水曜 空襲警報

大野官先方五十九日の内田社事務所

七月十九日 木曜

星野正徳へ身代札の催促をなす

七月二十日 金曜 湯島空襲被害者慰問会へ参加

七月二十一日 土曜

七月二十二日 日曜

湯島空襲被害者慰問会へ参加

七月二十三日 月曜

七月二十四日 火曜

七月二十五日 水曜

七月二十六日 木曜

七月二十七日 金曜 杉野村へ参り

七月二十八日 土曜 月夜余内田社事務所

七月二十九日 日曜 湯島空襲被害者慰問会へ参加

手紙は未だ未だ行く

七月三十日 月曜 湯島空襲被害者慰問会へ参加

湯島空襲被害者慰問会へ参加

七月三十一日 火曜

八月一日 水曜

湯島空襲被害者慰問会へ参加

湯島空襲被害者慰問会へ参加

八月二日 木曜

湯島空襲被害者慰問会へ参加

八月三日 金曜

八月四日 土曜

八月五日 日曜

湯島空襲被害者慰問会へ参加

九月二十日 晴 雨 秋意甚濃 由田村寺社
 九月二十四 月曜
 九月二十五 火曜
 故市川孝一 下 寺 堂 内 田 村 寺 社
 九月二十六 水曜
 市川孝一 寺 堂 内 田 村 寺 社
 九月二十七 木曜 内 田 村 寺 社
 九月二十八 金曜 月 次 由 田 村 寺 社
 九月二十九 土曜 晴
 明日 晴 日 寺 堂 内 田 村 寺 社

近頃 秋意 甚濃 秋意 甚濃 秋意 甚濃
 九月二十日 晴 雨 秋意甚濃 由田村寺社
 九月二十四 月曜
 九月二十五 火曜
 故市川孝一 下 寺 堂 内 田 村 寺 社
 九月二十六 水曜
 市川孝一 寺 堂 内 田 村 寺 社
 九月二十七 木曜 内 田 村 寺 社
 九月二十八 金曜 月 次 由 田 村 寺 社
 九月二十九 土曜 晴
 明日 晴 日 寺 堂 内 田 村 寺 社

日増し 陰気 加 じ 秋 意 甚 濃 秋 意 甚 濃
 九月三十日 日曜
 十月 月曜 月 次 由 田 村 寺 社
 十月二日 水曜 晴
 十月三日 木曜 雨 朝 早 己 女 君 来 了
 十月四日 金曜 雨 杉 本 氏 幼 女 和 菜 由 田 村 寺 社
 十月五日 土曜
 十月七日 日曜

日増し 陰気 加 じ 秋 意 甚 濃 秋 意 甚 濃
 九月三十日 日曜
 十月 月曜 月 次 由 田 村 寺 社
 十月二日 水曜 晴
 十月三日 木曜 雨 朝 早 己 女 君 来 了
 十月四日 金曜 雨 杉 本 氏 幼 女 和 菜 由 田 村 寺 社
 十月五日 土曜
 十月七日 日曜

田村三郎
 田村三郎
 田村三郎

田村三郎
 田村三郎
 田村三郎

十月八日 月曜 境内の農業会主催の係り古川六ッは
一層の曇り空に於てはし雨天の中止

十月九日 火曜 雨

十月十日 水曜 雨

十月十一日 木曜 雨 連日降雨四日及ぶ

十月十二日 金曜 康幸より衣類蒲団送り来り

十月十三日 土曜 康幸より送り来り了り荷物整理了り

十月十四日 日曜 大坂より訪友来り

十月十五日 月曜 康幸より土産

月次系内田社司在任

十月十六日 火曜

十月十七日 水曜 神嘗祭内田社司在任

十月十八日 木曜

十月十九日 金曜 内田社司より土産

十月二十日 土曜 雨

十月二十一日 日曜 雨

十月二十二日 月曜 雨

十月二十三日 火曜 雨

十月二十四日 水曜 雨

十月二十五日 木曜 雨

十月二十六日 金曜

十月二十七日 土曜

十月二十八日 日曜 月次系内田社司在任

十月二十九日 月曜

十月三十日 火曜

十月三十一日 水曜 雨

十一月

十一月一日 木曜 月次系内田社司在任

五井の大家神社係り由田社司補助の由出張

十一月二日 金曜 池田若吉より五井木材会社行く

十一月三日 土曜 明治堂内田社司在任

十一月四日 日曜

十一月五日 月曜

十一月六日 火曜

十一月七日 水曜

神祇會役員会より三波神社に参詣し内田社司出席

池田若吉より五井木材会社に行く

十一月八日 木曜

由田社司村田村木会社に参詣し加藤君より土産を
得る、村田君に土産を

善助行好名之、世世四人、有行、止、臥、且、夫、手、の、計、也、
終、の、一、つ、て、市、川、に、舟、を、置、け、因、其、若、敷、の、小、倉、倉、庫、に、入、り、
此、所、に、臥、息、す、

元、日、は、初、詣、の、始、り、近、頃、在、の、来、拜、者、以、大、い、儀、あり、拜、止、
来、拜、は、在、へ、一、家、一、子、の、儀、あり、
女、子、も、一、つ、と、島、田、赤、け、の、日、下、用、の、服、装、は、取、々、と、あ、り、
拜、止、り、上、足、け、し、

一月二日 木曜 雪 終日終務所在り 三十分終務所在り
一月三日 金曜 北風強 元始祭内田宮司在り社
市門下迄行り 田島新石

一月十日 曜 好晴

一月十一日 曜 好晴 臥床

一月十二日 曜 好晴 臥床

一月十三日 曜 好晴

一月十四日 曜 好晴

一月十五日 曜 好晴

八幡終祭 若建壇し 地鎮祭 執行 内田宮司在り

一月十六日 曜 好晴 氏也終祭 止 臥息す
一月廿七日 曜 好晴

一月十三日 曜 好晴

一月十四日 曜 好晴 天及六時おわり 火点入 終務所内田宮司在り

元日 終務所在り 終務所在り 終務所在り 終務所在り

一月十五日 曜 好晴 月次祭内田宮司在り

一月十六日 曜 好晴 終務所在り 終務所在り

一月十七日 曜 好晴 終務所在り 終務所在り

一月十八日 曜 好晴 終務所在り 終務所在り

一月十九日 曜 好晴 終務所在り 終務所在り
昨日終務所大而今朝暴風を加へ此時快晴とあり

一月十九日 曜 好晴

一月二十日 曜 好晴

一月二十一日 曜 好晴 日と西の風強し 四日元且

一月二十二日 曜 好晴 終務所在り

一月二十三日 曜 好晴

一月二十四日 曜 好晴

一月二十五日 曜 好晴

一月二十六日 曜 好晴 終務所在り 終務所在り

一月二十七日 曜 好晴

三月十日 木曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

二月三十日 月曜 池田長尾 池田長尾 池田長尾

二月二十日 火曜 時田長尾 時田長尾 時田長尾

二月十日 木曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

二月十日 金曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

二月十日 土曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 日曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

元同情園 御多の御用 御多の御用 御多の御用

執行

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 木曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

二月三十日 月曜 池田長尾 池田長尾 池田長尾

二月二十日 火曜 時田長尾 時田長尾 時田長尾

二月十日 木曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

二月十日 金曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

二月十日 土曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 日曜 御多の御用 御多の御用 御多の御用

元同情園 御多の御用 御多の御用 御多の御用

執行

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月十日 御多の御用 御多の御用 御多の御用

三月二十一日 水曜

三月二十日 水曜

三月十九日 水曜

三月十八日 水曜

三月十七日 水曜

三月十六日 水曜

三月十五日 水曜

三月十四日 水曜

三月十三日 水曜

三月十二日 水曜

三月十一日 水曜

三月十日 水曜

三月九日 水曜

三月八日 水曜

三月七日 水曜

三月六日 水曜

三月五日 水曜

三月四日 水曜

三月三日 水曜

三月二日 水曜

三月一日 水曜

三月二十一日 水曜

三月二十日 水曜

三月十九日 水曜

三月十八日 水曜

三月十七日 水曜

三月十六日 水曜

三月十五日 水曜

三月十四日 水曜

三月十三日 水曜

三月十二日 水曜

三月十一日 水曜

三月十日 水曜

三月九日 水曜

三月八日 水曜

三月七日 水曜

三月六日 水曜

三月五日 水曜

三月四日 水曜

三月三日 水曜

三月二日 水曜

三月一日 水曜

三月二十一日 水曜

三月二十日 水曜

三月十九日 水曜

三月十八日 水曜

三月十七日 水曜

三月十六日 水曜

三月十五日 水曜

三月十四日 水曜

三月十三日 水曜

三月十二日 水曜

三月十一日 水曜

三月十日 水曜

三月九日 水曜

三月八日 水曜

三月七日 水曜

三月六日 水曜

三月五日 水曜

三月四日 水曜

三月三日 水曜

三月二日 水曜

三月一日 水曜

九月廿五日

九月廿六日

九月廿七日

九月廿八日

九月廿九日

九月三十日

Handwritten entries for the month of September, including dates and descriptions of events or activities.

九月廿一日

九月廿二日

九月廿三日

九月廿四日

九月廿五日

九月廿六日

九月廿七日

九月廿八日

九月廿九日

九月三十日

Handwritten entries for the month of September, including dates and descriptions of events or activities.

九月廿五日

九月廿六日

九月廿七日

九月廿八日

九月廿九日

九月三十日

Handwritten entries for the month of September, including dates and descriptions of events or activities.

九月廿一日

九月廿二日

九月廿三日

九月廿四日

九月廿五日

九月廿六日

Handwritten entries for the month of September, including dates and descriptions of events or activities.

十月二日 晴

十月三日 晴 明海亭 向田屋の五左

本井町若字八幡宮に於て新大坂御使と申す由り申出

十月四日 火曜

十月五日 水曜

十月六日 木曜

十月七日 金曜 曲者地費收買火土由田屋三右衛門孫上御行出

甲辰地費の事 海坂

十月八日 土曜

十月九日 日曜 新大坂御使の事 申出

以下大坂御使の事 申出

十月九日 日曜

十月十日 月曜

十月十一日 火曜

日水曜 津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

津之奈内田屋の事 申出

十月二十二日 火曜

十月二十二日 火曜

十月二十三日 水曜

十月二十三日 水曜

十月二十四日 木曜

十月二十四日 木曜

十月二十五日 金曜

十月二十五日 金曜

十月二十六日 土曜

十月二十六日 土曜

十月二十五日 火曜

水曜

境内中學校建設敷地之鎮祭執行

十月二十七日 木曜

十月二十八日 金曜

十月二十九日 土曜

湯野敏政氏御遺子由所結成

由山正氏御遺子由所結成

十月三十一日 月曜

十月三十一日 月曜

二月十九日 月曜

二月十九日 月曜

二月二十日 火曜

二月二十日 火曜

二月二十一日 水曜

二月二十一日 水曜

二月二十二日 木曜

二月二十二日 木曜

二月二十三日 金曜

二月二十三日 金曜

二月二十四日 土曜

二月二十四日 土曜

二月二十五日 日曜

二月二十五日 日曜

二月二十六日 月曜

二月二十六日 月曜

二月二十七日 火曜

二月二十七日 火曜

二月二十八日 水曜

二月二十八日 水曜

二月二十九日 木曜

二月二十九日 木曜

二月三十日 金曜

二月三十日 金曜

三月一日 土曜

三月一日 土曜

三月二日 日曜

三月二日 日曜

三月三日 月曜

三月三日 月曜

三月四日 火曜

三月四日 火曜

三月五日 水曜

三月五日 水曜

三月六日 木曜

三月六日 木曜

三月七日 金曜

三月七日 金曜

三月八日 土曜

三月八日 土曜

三月九日 日曜

三月九日 日曜

三月十日 月曜

三月十日 月曜

三月十一日 火曜

三月十一日 火曜

三月十二日 水曜

三月十二日 水曜

三月十三日 木曜

三月十三日 木曜

三月十四日 金曜

三月十四日 金曜

四月十六日 月曜

四月十七日 火曜

四月十八日 水曜

四月十九日 木曜

四月二十日 金曜

四月二十一日 土曜

四月二十二日 日曜

是日、朝の霧が立ち、雨に降る。...

四月十九日、木曜、...

四月二十日、金曜、...

境内、...

夜時、...

四月十八日 月曜

四月十九日 火曜

四月二十日 水曜

四月二十一日 木曜

四月二十二日 金曜

是日、朝の霧が立ち、雨に降る。...

四月十九日、火曜、...

四月二十日、水曜、...

境内、...

四月二十四日 土曜

四月二十五日 日曜

四月二十六日 月曜

四月二十七日 火曜

四月二十八日 水曜

四月二十九日 木曜

四月三十日 金曜

境内、...

四月二十五日、日曜、...

四月二十六日、月曜、...

四月二十七日、火曜、...

境内、...

四月三十日 金曜

五月一日 土曜

五月二日 日曜

五月三日 月曜

五月四日 火曜

五月五日 水曜

境内、...

五月一日、土曜、...

五月二日、日曜、...

五月三日、月曜、...

境内、...

六月十七日 本館
六月十八日 全勝

六月十九日 土曜
六月二十日 日曜

六月二十一日 月曜
六月二十二日 火曜

六月二十三日 水曜
六月二十四日 木曜

六月二十五日 金曜

六月二十六日 土曜

六月二十七日 日曜

六月二十八日 月曜
六月二十九日 火曜
六月三十日 水曜

六月三十日 本館

七月一日 本館

七月二日 本館

七月三日 本館

七月四日 本館

七月五日 本館

七月六日 本館

七月七日 本館

七月八日 本館

七月九日 本館

七月十日 本館

七月十一日 本館

七月十二日 本館

七月十三日 本館

七月十四日 本館

七月十五日 本館

七月十六日 本館

七月十七日 本館

七月十八日 本館

七月十九日 本館

七月二十日 本館

七月二十一日 本館

七月二十二日 本館

七月二十三日 本館

七月二十四日 本館

七月二十五日 本館

七月二十六日 本館

七月二十七日 本館

七月二十八日 本館

七月二十九日 本館

七月三十日 本館

七月三十一日 本館

八月一日 本館

八月二日 本館

八月三日 本館

八月四日 本館

八月五日 本館

八月六日 本館

八月七日 本館

八月八日 本館

八月九日 本館

八月十日 本館

八月十一日 本館

十二月廿四日金曜日
...

十二月廿五日土曜日
...

十二月廿六日
...

十二月廿七日
...

十二月廿八日
...

十二月廿九日

十二月三十日

十二月三十一日

大政式も及ぶ時...

...

...

...

...

十二月二十四日

十二月二十五日

...

...

...

...

十二月二十六日

月十四日 金曜日

月十五日 土曜日

月十六日 日曜日

月十七日 月曜日

月十八日 火曜日

月十九日 水曜日

月二十日 木曜日

月二十一日 金曜日

月二十二日 土曜日

月二十三日 日曜日

案議院議決、久技山日進堂人口出是、長好

海土白子、此、此、此、此

月、此、此、此、此

石、此、此、此、此

此、此、此、此

月二十三日 月曜日

月二十四日 火曜日

月二十五日 水曜日

月二十六日 木曜日

月二十七日 金曜日

月二十八日 土曜日

月二十九日 日曜日

月三十日 月曜日

月三十一日 火曜日

月三十二日 水曜日

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

二月三十日 月曜日

三月一日 火曜日

三月二日 水曜日

三月三日 木曜日

三月四日 金曜日

三月五日 土曜日

三月六日 日曜日

三月七日 月曜日

三月八日 火曜日

三月九日 水曜日

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

二月

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此

二月五日 土曜 月納金四ツ

二月十日 土曜 小倉、大倉、白田、中倉、下倉

二月十七日 木曜 新倉、大倉、白田、中倉、下倉

二月十八日 金曜

二月十九日 土曜

二月二十日 日曜 分限、大倉、白田、中倉、下倉

二月二十一日 月曜

二月二十二日 火曜 小倉、大倉、白田、中倉、下倉

二月二十三日 水曜

二月二十四日 木曜

二月二十五日 金曜

鶏若道合會の正火を頼まれ、二枚位が、二枚位が、二枚位が、お礼、お礼、お礼

二月二十六日 土曜

二月二十七日 日曜

二月二十八日 月曜 月納金、月納金、月納金

三月

三月一日 火曜 月納金、月納金、月納金

春の祭、大倉、白田、中倉、下倉、決意、決意、決意、春の祭、大倉、白田、中倉、下倉、決意、決意、決意

三月二日 水曜

三月三日 木曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月四日 金曜

三月五日 土曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月六日 日曜

三月七日 月曜

三月八日 火曜

三月九日 水曜

三月十日 木曜

三月十一日 金曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月十二日 土曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月十三日 日曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月十四日 月曜

三月十五日 火曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月十六日 水曜

三月十七日 木曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月十八日 金曜 大倉、白田、中倉、下倉

三月十九日 土曜

三月二十日 日曜

三月三十日 土曜

四月

四月一日 全曜 日宮寺由日宮寺に往

四月三日 土曜

四月五日 日曜

四月七日 月曜

四月九日 火曜

四月十一日 水曜

四月十三日 木曜

四月十五日 金曜

四月十七日 土曜

四月十九日 日曜

四月二十一日 月曜

四月二十三日 火曜

四月二十五日 水曜

四月二十七日 木曜

四月二十九日 金曜

四月三十一日 土曜

五月一日 日曜

五月三日 月曜

五月五日 火曜

五月七日 水曜

五月九日 木曜

五月十一日 金曜

五月十三日 土曜

五月十五日 日曜

五月十七日 月曜

五月十九日 火曜

五月二十一日 水曜

五月二十三日 木曜

五月二十五日 金曜

五月二十七日 土曜

五月二十九日 日曜

五月三十一日 月曜

六月一日 火曜

六月三日 水曜

六月五日 木曜

六月七日 金曜

六月九日 土曜

六月十一日 日曜

六月十三日 月曜

六月十五日 火曜

六月十七日 水曜

六月十九日 木曜

六月二十一日 金曜

六月二十三日 土曜

六月二十五日 日曜

六月二十七日 月曜

六月二十九日 火曜

六月三十一日 水曜

七月一日 木曜

七月三日 金曜

七月五日 土曜

七月七日 日曜

七月九日 月曜

七月十一日 火曜

七月十三日 水曜

七月十五日 木曜

七月十七日 金曜

七月十九日 土曜

七月二十一日 日曜

七月二十三日 月曜

七月二十五日 火曜

七月二十七日 水曜

七月二十九日 木曜

七月三十一日 金曜

八月一日 土曜

八月三日 日曜

八月五日 月曜

八月七日 火曜

八月九日 水曜

八月十一日 木曜

八月十三日 金曜

八月十五日 土曜

八月十七日 日曜

八月十九日 月曜

八月二十一日 火曜

八月二十三日 水曜

八月二十五日 木曜

八月二十七日 金曜

八月二十九日 土曜

八月三十一日 日曜

九月一日 月曜

九月三日 火曜

九月五日 水曜

九月七日 木曜

九月九日 金曜

九月十一日 土曜

九月十三日 日曜

九月十五日 月曜

九月十七日 火曜

九月十九日 水曜

九月二十一日 木曜

九月二十三日 金曜

九月二十五日 土曜

九月二十七日 日曜

九月二十九日 月曜

九月三十一日 火曜

十月一日 水曜

十月三日 木曜

十月五日 金曜

十月七日 土曜

十月九日 日曜

十月十一日 月曜

十月十三日 火曜

十月十五日 水曜

十月十七日 木曜

十月十九日 金曜

十月二十一日 土曜

十月二十三日 日曜

十月二十五日 月曜

十月二十七日 火曜

十月二十九日 水曜

十月三十一日 木曜

十一月一日 金曜

十一月三日 土曜

十一月五日 日曜

十一月七日 月曜

十一月九日 火曜

十一月十一日 水曜

十一月十三日 木曜

十一月十五日 金曜

十一月十七日 土曜

十一月十九日 日曜

十一月二十一日 月曜

十一月二十三日 火曜

十一月二十五日 水曜

十一月二十七日 木曜

十一月二十九日 金曜

十一月三十一日 土曜

十二月一日 日曜

十二月三日 月曜

十二月五日 火曜

十二月七日 水曜

十二月九日 木曜

十二月十一日 金曜

十二月十三日 土曜

十二月十五日 日曜

十二月十七日 月曜

十二月十九日 火曜

十二月二十一日 水曜

十二月二十三日 木曜

十二月二十五日 金曜

十二月二十七日 土曜

十二月二十九日 日曜

十二月三十一日 月曜

一月一日 火曜

一月三日 水曜

一月五日 木曜

一月七日 金曜

一月九日 土曜

一月十一日 日曜

一月十三日 月曜

一月十五日 火曜

一月十七日 水曜

一月十九日 木曜

一月二十一日 金曜

一月二十三日 土曜

一月二十五日 日曜

一月二十七日 月曜

一月二十九日 火曜

一月三十一日 水曜

二月一日 木曜

二月三日 金曜

二月五日 土曜

二月七日 日曜

二月九日 月曜

二月十一日 火曜

二月十三日 水曜

二月十五日 木曜

二月十七日 金曜

二月十九日 土曜

二月二十一日 日曜

二月二十三日 月曜

二月二十五日 火曜

二月二十七日 水曜

二月二十九日 木曜

二月三十一日 金曜

三月一日 土曜

三月三日 日曜

三月五日 月曜

三月七日 火曜

三月九日 水曜

三月十一日 木曜

三月十三日 金曜

三月十五日 土曜

三月十七日 日曜

三月十九日 月曜

三月二十一日 火曜

三月二十三日 水曜

三月二十五日 木曜

三月二十七日 金曜

三月二十九日 土曜

三月三十一日 日曜

四月一日 月曜

四月三日 火曜

四月五日 水曜

四月七日 木曜

四月九日 金曜

四月十一日 土曜

四月十三日 日曜

四月十五日 月曜

四月十七日 火曜

四月十九日 水曜

四月二十一日 木曜

四月二十三日 金曜

四月二十五日 土曜

四月二十七日 日曜

四月二十九日 月曜

五月一日 火曜

五月三日 水曜

五月五日 木曜

五月七日 金曜

五月九日 土曜

五月十一日 日曜

五月十三日 月曜

五月十五日 火曜

五月十七日 水曜

五月十九日 木曜

五月二十一日 金曜

五月二十三日 土曜

五月二十五日 日曜

五月二十七日 月曜

五月二十九日 火曜

五月三十一日 水曜

六月一日 木曜

六月三日 金曜

六月五日 土曜

六月七日 日曜

六月九日 月曜

六月十一日 火曜

六月十三日 水曜

六月十五日 木曜

六月十七日 金曜

六月十九日 土曜

六月二十一日 日曜

六月二十三日 月曜

六月二十五日 火曜

六月二十七日 水曜

六月二十九日 木曜

六月三十一日 金曜

七月一日 土曜

七月三日 日曜

七月五日 月曜

七月七日 火曜

七月九日 水曜

七月十一日 木曜

七月十三日 金曜

七月十五日 土曜

七月十七日 日曜

七月十九日 月曜

七月二十一日 火曜

七月二十三日 水曜

七月二十五日 木曜

七月二十七日 金曜

七月二十九日 土曜

七月三十一日 日曜

八月一日 月曜

八月三日 火曜

八月五日 水曜

八月七日 木曜

八月九日 金曜

八月十一日 土曜

八月十三日 日曜

八月十五日 月曜

八月十七日 火曜

八月十九日 水曜

八月二十一日 木曜

八月二十三日 金曜

八月二十五日 土曜

八月二十七日 日曜

八月二十九日 月曜

八月三十一日 火曜

九月一日 水曜

九月三日 木曜

九月五日 金曜

九月七日 土曜

九月九日 日曜

九月十一日 月曜

九月十三日 火曜

九月十五日 水曜

九月十七日 木曜

九月十九日 金曜

九月二十一日 土曜

九月二十三日 日曜

九月二十五日 月曜

九月二十七日 火曜

九月二十九日 水曜

九月三十一日 木曜

十月一日 金曜

十月三日 土曜

十月五日 日曜

十月七日 月曜

十月九日 火曜

十月十一日 水曜

十月十三日 木曜

十月十五日 金曜

十月十七日 土曜

十月十九日 日曜

十月二十一日 月曜

十月二十三日 火曜

十月二十五日 水曜

十月二十七日 木曜

十月二十九日 金曜

六月廿七日 晴

六月廿八日 晴 海邊へ

六月廿九日 晴 打ち寄る松葉の影に引取

七月一日 晴

七月二日 晴

七月三日 晴 池田氏表紙

七月四日 晴 能登野所へ寄る五所書以、近き一行

七月五日 晴

七月六日 晴 近き所へ取寄る松葉の影に引取

七月七日 晴 月夜の内田の寺

七月八日 晴 月夜の内田の寺

七月九日 晴 月夜の内田の寺

七月十日 晴 月夜の内田の寺

七月十一日 晴 月夜の内田の寺

七月十二日 晴 月夜の内田の寺

七月十三日 晴 月夜の内田の寺

七月十四日 晴 月夜の内田の寺

七月十五日 晴 月夜の内田の寺

七月十六日 晴 月夜の内田の寺

千葉縣市京部八番町坂香洲八番宮用紙

六月廿五日 晴

六月廿六日 晴

六月廿七日 晴

六月廿八日 晴

六月廿九日 晴

六月三十日 晴

七月一日 晴

七月二日 晴

七月三日 晴

七月四日 晴

七月五日 晴

七月六日 晴

七月七日 晴

七月八日 晴

七月九日 晴

七月十日 晴

七月十一日 晴

七月十二日 晴

七月十三日 晴

七月十四日 晴

七月十五日 晴

七月十六日 晴

七月十七日 晴

七月十八日 晴

七月十九日 晴

七月二十日 晴

七月二十一日 晴

七月二十二日 晴

七月二十三日 晴

七月二十四日 晴

七月二十五日 晴

千葉縣市原郡八幡町八幡宮用紙

七月廿六日 晴

七月廿七日 晴

七月廿八日 晴

七月廿九日 晴

七月三十日 晴

八月一日 晴

八月二日 晴

八月三日 晴

八月四日 晴

八月五日 晴

八月六日 晴

八月七日 晴

八月八日 晴

八月九日 晴

八月十日 晴

八月十一日 晴

八月十二日 晴

八月十三日 晴

八月十四日 晴

八月十五日 晴

八月十六日 晴

八月十七日 晴

八月十八日 晴

八月十九日 晴

八月二十日 晴

八月二十一日 晴

八月二十二日 晴

八月二十三日 晴

八月二十四日 晴

八月二十五日 晴

千葉縣市原郡八幡町八幡宮用紙

六月廿五日 晴

六月廿六日 晴

六月廿七日 晴

六月廿八日 晴

六月廿九日 晴

六月三十日 晴

七月一日 晴

七月二日 晴

七月三日 晴

七月四日 晴

七月五日 晴

七月六日 晴

七月七日 晴

七月八日 晴

七月九日 晴

七月十日 晴

七月十一日 晴

七月十二日 晴

七月十三日 晴

七月十四日 晴

七月十五日 晴

七月十六日 晴

七月十七日 晴

七月十八日 晴

七月十九日 晴

七月二十日 晴

七月二十一日 晴

七月二十三日 晴

七月二十四日 晴

七月二十五日 晴

千葉縣市原郡八幡町八幡宮用紙

七月廿六日 晴

七月廿七日 晴

七月廿八日 晴

七月廿九日 晴

七月三十日 晴

八月一日 晴

八月二日 晴

八月三日 晴

八月四日 晴

八月五日 晴

八月六日 晴

八月七日 晴

八月八日 晴

八月九日 晴

八月十日 晴

八月十一日 晴

八月十二日 晴

八月十三日 晴

八月十四日 晴

八月十五日 晴

八月十六日 晴

八月十七日 晴

八月十八日 晴

八月十九日 晴

八月二十日 晴

八月二十一日 晴

八月二十二日 晴

八月二十三日 晴

八月二十四日 晴

八月二十五日 晴

千葉縣市原郡八幡町八幡宮用紙

若くは町長より町民に對して町政の進歩を促すに當り、

町民一團の力を以て、町政の進歩を期すべし。

町民の進歩は、町政の進歩に依りて、

町政の進歩は、町民の進歩に依りて、

町民の進歩は、町政の進歩に依りて、

町政の進歩は、町民の進歩に依りて、

町民の進歩は、町政の進歩に依りて、

町政の進歩は、町民の進歩に依りて、

町民の進歩は、町政の進歩に依りて、

町政の進歩は、町民の進歩に依りて、

七月十日の土曜

は、昨日の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

雨降り、毎朝の如く、雨降り、毎朝の如く、

下 藤原市京部八番丁坂香岡八番官用紙

八月廿、金曜日

八月廿一日、土曜日

八月廿二日、日曜日

八月廿三日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿四日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿五日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿六日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿七日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿八日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿九日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿九日、水曜日

八月三十日、木曜日

十一月

十一月一日、金曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月二日、土曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月三日、日曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月四日、月曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月五日、火曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月六日、水曜日

八月廿一日、土曜日

八月廿二日、日曜日

八月廿三日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿四日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿五日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿六日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿七日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿八日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿九日、月次奉内田宮の奉仕

八月三十日、月次奉内田宮の奉仕

八月廿九日、水曜日

十一月

十一月一日、金曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月二日、土曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月三日、日曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月四日、月曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月五日、火曜日 月次奉内田宮の奉仕

十一月六日、水曜日

十一月七日、木曜日

十一月八日、金曜日

十一月九日、土曜日

十一月十日、日曜日

十一月十一日、月曜日

十一月十二日、火曜日

十一月十三日、水曜日

十一月十四日、木曜日

十一月十五日、金曜日

十一月十六日、土曜日

四月廿四日

河津渡の吉造は面白いと疑の喧嘩を見た様だ、

マカリーサー元帥能任せり、誰か怪しき様を感しおす、敗戦の日を今も忘れ、再犯せしめたるは之帥、其の所極大に、
何と云ふべし、

四月廿四日 月次名由田守の在

四月廿七日

マカリーサー元帥愈々本日も前七日分の田空港より出立せり、
官房の見送り三七系余人と仰らる、
之帥は偉大なる格好の所見、
ありふたあり

四月廿七日

マカリーサー元帥は、
上の様 貴人より力せられ、
四月廿七日

四月廿七日

坂田由良の山跡退場大に、
四月廿七日

四月廿七日

坂田由良の山跡退場大に、
四月廿七日

四月廿七日

四月廿七日

千葉縣市原郡八幡町坂香洞八幡宮用紙

七月十三日 金曜日

七月十四日 土曜日

七月十五日 日曜日 月次奉納金納付

七月十六日 月曜日

七月十七日 火曜日 他日氏定一行

七月十八日 水曜日 市川氏一行

七月十九日 木曜日 三山氏一行

七月二十日 金曜日

七月二十一日 土曜日 三山氏一行 八幡宮にて七十五名参り、銀道
者の御座居り奉りしと云ふ

八月一日 日曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月二日 月曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月三日 火曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月四日 水曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月五日 木曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月六日 金曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月七日 土曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月八日 日曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月九日 月曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月十日 火曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

千葉県市原市八幡町八幡宮御用氏

七月二十一日 金曜日

七月二十二日 土曜日

七月二十三日 日曜日 月次奉納金納付

七月二十四日 月曜日

七月二十五日 火曜日 四宮氏一行

七月二十六日 水曜日

七月二十七日 木曜日

七月二十八日 金曜日

八月一日 土曜日 文化財指定：奉りし内宮の古
幣

八月二日 日曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月三日 月曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月四日 火曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月五日 水曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月六日 木曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

八月七日 金曜日

八月八日 土曜日

八月九日 日曜日

八月十日 月曜日 八幡宮にて七十五名参り、銀道

千葉県市原市八幡町八幡宮御用氏

十一月廿一日 火曜

十一月廿二日 水曜

十一月廿三日 木曜

十一月廿四日 金曜 石川氏より授けられたる八幡宮表装より

十一月廿五日 土曜

十一月廿六日 日曜

十一月廿七日 月曜

十一月廿八日 火曜 海上氏夫人来社

十一月廿九日 水曜

十一月三十日 木曜 月江氏より寄附

二重丸より君から朝日館香附り紙官用紙

七五の祝りありお祝は今日祝に在りたるとは社頭は寂し

生活改善とあり美名の下に、世の中は微細ありあり

ものた

十一月廿一日 金曜

十一月廿二日 土曜

十一月廿三日 日曜

井太宮社とありお祝は今日祝に在りたるとは社頭は寂し

十一月廿四日 月曜

十一月廿五日 火曜

十一月廿六日 水曜

二重丸より君から朝日館香附り紙官用紙

一月二十日 火曜日

一月二十三日 水曜日

一月二十四日 木曜日

一月二十五日 金曜日

八幡町土地改良区事務所にて、内田守吉君に

一月二十六日 土曜日

保長七之助氏、太神宮参り、内田守吉君に

一月二十七日 日曜日

一月二十八日 月曜日

一月二十九日 火曜日

月次参り、内田守吉君に

一月三十日 水曜日

一月三十一日 木曜日

二月一日 金曜日

二月二日 土曜日

二月三日 日曜日

二月四日 月曜日

二月五日 火曜日

二月六日 水曜日

二月七日 木曜日

二月八日 金曜日

二月九日 土曜日

二月十日 日曜日

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

千葉県八幡町八幡宮月記

二月十日 土曜日

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

二月十一日 日曜日

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

二月十二日 月曜日

二月十三日 火曜日

二月十四日 水曜日

二月十五日 木曜日

二月十六日 金曜日

二月十七日 土曜日

二月十八日 日曜日

二月十九日 月曜日

二月二十日 火曜日

二月二十一日 水曜日

二月二十二日 木曜日

二月二十三日 金曜日

二月二十四日 土曜日

二月二十五日 日曜日

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

市子村中地先物造改修工事、起工式、内田守吉君に

千葉県八幡町八幡宮月記

町合同五之夜は公民館にて有十名余り参集して行ふ

出立は公式終了の次町内各に昇殿して神前に行き

るまゝに御祝儀を授けせり、畢後、参拜日カ名程

十月十六日

曇

日曜

神主 桑山 宗司 奉仕 鈴木 浅雄 栢 三 中 正 渡 久 石 井

今迄代名に列 終る迄自今を兼ねく迄代名と備

十月十七日

曇

月曜

十月十八日

晴

大曜

新田町のヒシヤ村五十本町及地方事務所の幹族の栢樹
候人合長木七のミ話のサカガの夜礼

十月十九日

曇

雨曜

行徳町後馬神樂の古き復新調の降、其用事と此會

帰途子事兼井邊の、計内、運代を此會、神代片に之定う。

十月廿日

曇

金曜

市川石三翁八十八未老の参拜をなす何時七午の傳傳

参すべし

十月廿一日

曇

金曜

渡辺氏の月夜参りの口火あり

十月廿二日

曇

土曜

此日十時迄に付子事、一停筆

新田町八幡町八幡宮町

月誌

鎌倉心悟堂法務所

昭和25年
27年

1月1日 日曜日 午前10時元旦祭執行、参列者は菅野町長始め町会議員等30名ばかり、折り悪しくこの日は寒雨終日止まず人出はほとんどなし。本年の世相はいかに、インフレは少々下火になりたるごときも、今度は不景気風強く金づまりやら就職難やらで相変わらず人心は安定せざるがごとし、一番困るのは失業者なるべし、この物価高に失業とはいかんとも方法なかるべし、しかしその結果物価は少々下落の一方をたどるがごとき状態のようだ。

1月10日 火曜日 相当なる準備をしたる金刀比羅宮祭もこの日午前中より雨に風を加え大はずれなりしは甚だ遺憾なりし、しかし式は予定の通り午前10時よりはじめ、式終つて公民館にて御神酒に折詰を出し植草辰五郎氏の挨拶ありて終る。2月3日 金曜日 節分会午後7時内田官司奉仕、早くも立春の候となる。

2月14日 火曜日 日グラウンドで相撲あり、午後より雪

3月15日 水曜日 春季大祭午前10時式執行、菅野町長、岩田助役、警察署長、町会議員、各町氏子惣代等約30名参列、(中略) 祭典式のごとく終了、この日幸いに天候に恵まれずこぶる穏やかなる好天気なりし、しかし参拝者は意のごとくならず社会すう勢の一掃をしめしたるがごとし

4月1日 土曜日 公民館、中学校の敷地売り払い申請、町長の名義にて調整、大森女子に依頼して財務部千葉支部へ提出す。6月4日 日曜日 この日参議院選挙、当日八幡町の選挙は99%7とか8とかにて県下第一なりという。たしか3330の選挙(民)の内棄権したるもの11名だということである。

6月30日 金曜日 南鮮、北鮮戦争開始、マッカーサー元帥朝鮮に視察に行く、この戦争はソ連と米國との戦争に転展しなければよいがと思ふ。

7月9日 日曜日 昨日も今日も野球あり、混雑には困る

7月12日 水曜日 五井龍善院焼失

12月5日 火曜日 農協の建物落成式を公民館で大騒ぎ、畑草火をあげたり何かして

12月13日 水曜日 知事および参議院議員補欠選挙投票日

12月15日 金曜日 知事選挙の結果柴田等氏当選、石橋氏落選とは意外であった本県の自由党も稍々安心した気味であった。自由党あまりにも策を弄し過ぎた嫌いがあつたようである。

参議院も林英一郎氏落選、片岡氏当選した

12月31日 日曜日 大晦日、大祓い式内田官司奉仕、除夜祭内田官司奉仕、唯忙々の裡になんらなすこともなく暮れぬ、この25年を顧みるとき多少の感慨なき口けず。

昭和26年(1951)内田羊之助(官司)

1月1日 日曜日 元旦祭午前10時執行、参拝するもの菅野町長を初め各官衙および名譽職員約50名、学校の式、終りて神社参拝、後名刺交換会(公民館)だとのことである、この日は近來にない晴朗な天気である。

1月2日 火曜日 天気は良いが北風寒くなんだかさみしい正月だ

1月10日 水曜日 金刀比羅祭は大時雨にて大はずれ、公民館にて祭典執行

1月14日 日曜日 鎮火祭内田官司奉仕、おかがりグラウンドにてたく

1月15日 月曜日 成年の日(式は公民館)、簡粥の神事、内田官司奉仕

1月16日 火曜日 降雪、積もること2、3寸

1月17日 水曜日 消防出初め式執行

1月25日 木曜日 日々厳寒の寒さ続く、内田官司静養を続け、ねるより外仕方なし、この寒さではただ生きてゐるのみにて可なるがごとし

7月16日 日曜日 (秩父宮妃殿下公民館へお出でになり町民大騒ぎ)前出)

8月19日 土曜日 公民館にて時局問題を聞く

9月26日 火曜日 秋季大祭当日午前9時各氏子惣代祭典掛全部集合、祭典執行、午前10時より一の宮出御漸次各宮渡御、魚寅角より午後1時各宮拜殿前に集合、御祓いの上各町へ各宮再び渡御、夜深更に及ぶもついに還御せざりし、当日参列したるは地方事務所長、町長、助役、各氏子惣代、各祭典掛約50名参列、神職は天羽、早乙女、小田、海上、町田の5氏、口傘持ちは石川、各町より1名ずつ屋台引き、野口東夫、この日は快晴に恵まる。この日還御なることのできなかりしは相変わらずのことなれど誠に馬鹿馬鹿しき限りにて何の意味もなし、愚の極みなり

9月27日 水曜日 朝も昼も未だ御神輿還御なし、夜12時ころ一の宮ようやく還御

9月28日 木曜日 昨夜12時ころより一の宮より漸時還御朝5時ころに至りようやく五の宮まで還御、朝飯を喫したるは午前8時ころなりし

10月11日 水曜日 八幡五所漁業協同組合の八幡丸船下しの式奉仕

11月2日 木曜日 境内の樹木のなくなつたため、いまごろになると珍しき渡り鳥がきたのがこないので誠に寂しき感じがする。惜しき境内の樹木の伐り倒されたこと、風致の上でも誠に遺憾至極である

11月3日 金曜日 文化祭仮装行列などあり、大分混雑

11月9日 木曜日 旧9月30日にあたり神立祭、この夜は晴天で静かなる好日より気候は満点

11月10日 金曜日 教育委員選挙投票日

11月15日 水曜日 七五三の祝日なるも全部公民館に略奪せられ神職の領分を搾取せらる

2月1日 木曜日 神社の刀剣を公民館における本県文化財保護委員会へ提出、登録証を受く

2月4日 日曜日 追儺(ついな)式節分、内田官司奉仕

2月8日 木曜日 卯の日祭片町祭典、公民館にて内田官司奉仕

2月10日 土曜日 公民館、中学校敷地払い下げ願いに付、氏子総代連名を貰う

2月15日 木曜日 昨夜より降雪、積もること1尺より5、6尺に至る、近年稀なる大雪なり、こういう雪は15年前とか20年前とかと伝えらる

3月1日 木曜日 春季大祭執行に關し氏子総代会を開催、午後1時會する者27名の内21名、議決事項大体予定通り午後4時過ぎ散會、当日社務所より出したる酒2升の外総代側より酒3升、餅菓子千円提供、前例なきことなり

3月11日 日曜日 御神輿飾りつけをなす、

3月14日 水曜日 終日忙しい、夜8時前夜祭、内田官司奉仕

3月15日 木曜日 春季例祭午前10時半執行、参列者八幡町警察署長、八幡宿駅長、八幡銀行支店長、岩田町長代理、菅野儀作、田山弥一郎、岡本磯次郎、今井円蔵、杉本豊吉、植草辰五郎、その他氏子惣代など約30名拜殿にて御神酒を配布、社務所にて直會、参拝者約25名、時田、天羽両氏祭式補助、両池田、山下、石橋氏手伝いを頼む、この日幸いにも好天氣に恵まれ都合よかりし

3月29日 木曜日 村田川河川工事始業式の地鎮祭内田官司奉仕

3月31日 土曜日 早くも3か月を過ぎぬ、来月県会議員の選挙やら町村長、町村会議員の選挙やらにてどこもかしこもてんやわんやの騒ぎ

4月2日 月曜日 (公民館で) 小学校入学式

4月3日 火曜日 (公民館で) 中学校入学式

4月9日 日曜日 今年には寒い割りに桜が早い、昨日あたり満開

で今日よりは葉桜の光景である
4月13日金曜日 町会議員候補者発表せらる。だれが当選するか

4月14日土曜日 町会議員の当選は面白い、しゃもの喧嘩をみるようだ。マツカーサー元帥解任せらる。誠に惜しきような感じがする。敗戦の日本を今日まで再起せしめたのは同元帥に負うところ極めて大であると思われる

4月16日マツカーサー元帥いよいよ本日午前7時20分羽田空港より出発せらる。実に惜しき感じがせらる。官民の見送り27万余人と伝いらる。元帥は偉大なる人格者であった。日本には押し惜しみても余りある人であった

4月17日火曜日 マ元帥に変わって来た人はリッジウイ一中将である。どうかマ元帥と同様吾人のために尽力せられんことを望む

4月18日水曜日 夜自由党の山崎運輸大臣、佐久間、多田兩代議士の演説会を公民館に開く

4月28日土曜日 県会議員選挙明後30日に迫り、各運動員死にもの狂い、市原郡の候補者は菅野、征矢、多賀、市川、藤代、相川、中沢、桑田の8氏にして定員は3名なり、ゆえに5名が落選者となるわけなり

4月29日日曜日 八幡における県議候補者は市川得三、菅野儀作の両氏、まさに火花を散らす、劇選(激戦)入れ替わり街頭演説は死にもの狂いの状態なり

4月30日月曜日 県会議員の投票日、運命の極まるこの日県下全体の県議員はこの日をもって定まる。直ちに開票

5月1日火曜日 市原郡県会議員開票の結果、菅野儀作、相川久雄、多賀四郎の3氏当選発表せらる

5月3日木曜日 憲法施行4周年記念式典日

5月5日土曜日 公民館にて生活改善のたんの節句、何だか寂しいようであった

て海岸にて鉄入れの儀執行、内田宮司奉仕、参拝者柴田知事、川口前知事、農林省関係吏員

8月20日月曜日 市原郡遺族連合会主催にかかわる戦死病没者慰霊祭を公民館にて開催、内田宮司奉仕(中略) 遺族の関係者約千人、続いて遺族大会を開催、遺族の宣言について討議するところなり、終って除典なつたる模様なり

9月1日土曜日 この日八朔につき氏子惣代会開催、秋季大祭の協議をなす、会するもの20名ばかり、相変わらず要領をえ

ず

9月10日月曜日 御神輿飾りつく

9月15日土曜日 中秋にあたり大祭当日折り悪しく朝来大雨にていかんとも仕方なかりし、午前9時祭典執行、10時半一の宮出御、漸次五の宮出御、五所へ行き一周して拝殿前集合したるは午後1時ころなりし、そのころ雨は少し小止みとなる、それより各所へ渡御せり、当日時田氏、天羽氏、小田氏、早乙女、海上氏及び池田氏、石橋氏、山下氏、石川にも手伝いを依頼す、参列者は各官衙、公署、町名譽職員等約50名ばかりなり、この日御神輿は還御せず

9月17日月曜日 神輿また納まらずあきれたものだ、この悪習はどうか直るか馬鹿なことだ、正午過ぎヤット御神輿納まる

10月28日日曜日 八幡公民館にて八幡役場主催の戦死病没者慰霊祭を仏式にて執行

11月4日日曜日 八幡全町仮装行列執行、職を求めて無い人、失職の人、就職難、一家心中の生活難時代にあんまり馬鹿(馬鹿)しい

11月15日木曜日 七五三の祝日なるもお祝いは公民館に奪われたるをもって社頭は寂し、生活改善という美名の下に世の中には微妙なるものがあるものだ

11月28日水曜日 文部技官橋本文雄、文部工事掛湧田森徳、

5月8日火曜日 公民館敷地、八幡町役場敷地、中学校敷地、警察舎公舎敷地の地代、昭和25年分を受け取る

5月17日木曜日 八幡町の境内に公民館が建ち、中学校が建ち、今度また市原地方事務所が建ち、児童遊園地が建つという、まことに惜しきことである。境内の位置、建物といい申し分なきお官だが、その森厳さが年々減らされる

5月19日土曜日 公民館に旧町長菅野儀作氏、新町長鈴木貞一氏、旧八幡小学校校長立石七郎氏、新小学校校長今井氏の新旧町長、小学校長の送歓迎会を開く。内田宮司出席

6月11日月曜日 関東財務部財務局へ内田宮司、境内譲与許可書受取のため出頭

6月29日金曜日 2、3日前より地方事務所新築工事地ならしなど始む、八幡様のためには風致を損し誠に困ったものだ、氏子に一人の反対者ないとはあきれたものだ、余は最初から反対は表明しておるが何事も仕方がない

6月30日土曜日 大祓い式午後2時執行、内田宮司奉仕、大祓い式とても何人も参拝するものはない

7月4日水曜日 浅間神社例祭、好天ではあったが大したことなかつた。子供相撲もあつた、昼花火もあつた、しかし境内を運動場にするのでは神社の森厳がどうにもならない

7月5日木曜日 境内に建つる市原地方事務所の起式を行ふ。雨天のために御拝殿にて式を行ない、白鳥にて直会あり

7月21日土曜日 三山参拝者出発、八幡、五所で約75名ばかり、鉄道省の団体旅行なりという

7月23日月曜日 田中菊松氏船おろし、祓い内田宮司奉仕、御神輿修繕池田氏取りかかる

7月25日水曜日 昨日と2日間(八幡公民館で)夏期教養講座なるものあり、何の教養なるものかわからない

7月29日日曜日 八幡青年運動会あり

8月10日金曜日 八幡浦干拓起工式を公民館にて執行、続いて

県より平野仁三郎外1名来社、本社本殿その他を調査す、鈴木町長、岩田助役等立ち会ふ、文化財保護の件なり

12月8日土曜日 八幡小学校上棟式執行

12月20日木曜日 市原地方事務所落成式執行

12月31日月曜日 午後2時大祓い式執行、除夜祭内田宮司奉仕、相かわらざつた

昭和27年(1952)内田羊之助(市川教生宮司)

1月1日火曜日 午前10時過ぎ元旦祭奉仕、参列者鈴木町長、岩田助役、菅野県会議員、岡本地方事務所長、千葉銀行支店長、各町会議員、区長、その他名譽職員等約50名

1月10日木曜日 植草辰五郎氏主催の金刀比祭執行、参列者30名ばかり、式後公民館にて直会あり、参列者50名ばかりありたり、入会者は90名ばかり

1月21日月曜日 八幡町消防出初式

1月25日金曜日 八幡菊間土地改良区工事起工式、内田宮司奉仕

2月3日日曜日 卯の日祭内田宮司奉仕、片町は公民館にて卯の日祭執行、内田宮司奉仕

2月4日月曜日 午後6時節分祭、追儺(ついな)式、豆撒き、内田宮司奉仕

2月5日火曜日 この日は春分だというのに室内で零下2度、今冬中にて一番寒い日、北寒風厳しい

3月15日土曜日 午前10時春季祭々式執行、奉仕員宮司、(中略)、参列者町長、県会議員その外17、8名、この日は

近來まれなき好天気で万事滞りなく済みたり

3月16日日曜日 公民館にて小学校増築落成式、供米完遂、消防団表彰旗披露、防堤遂行等祝賀式に内田宮司参列

6月1日日曜日 一の宮御神輿、浜本町氏子惣代中西、関、魚

惣、その他2名付き添いでトラックにて行徳町御神輿所方へ持ちゆく

6月11日水曜日 内田宮司辞意を発表

6月12日水曜日 鈴木敬介氏辞意表明

6月13日金曜日 鈴木町長辞意表明

6月16日月曜日 市川教生氏来社、後任神職受諾の旨懇談あり

6月21日土曜日 内田宮司辞任に関する氏子惣代会開催、内田宮司辞任のことを満場一致にて承認、続いて後任宮司として市川教生氏を推薦することに満場一致にて承認せり、当日出席したる氏子惣代は一の宮として中西熊吉、関七郎、山本儀三郎、国吉勝次、二の宮として岡本磯次郎、田山弥一郎、今井国蔵、今井大司、三の宮として杉山伝蔵、石井角太郎、四の宮として宮吉亮、五の宮として鈴木敬介、植草辰五郎の諸氏なり

6月26日水曜日 漁業組合堀井地鎮祭執行

6月30日月曜日 大祓い式内田宮司奉仕、神輿新調のため一の宮御神輿行徳より持ち返る、辞職辞令早く出すよう市川教生君へ依頼状出す

7月2日水曜日 氏子一同の記念品、鈴木敬介、宮吉亮の両氏より内田宮司頂戴す

7月3日木曜日 教生君より6日発令の旨通知来る

7月4日金曜日 内田宮司の辞令ならびに市川教生氏任用の辞令、市川教生氏持ち来りくれる

(7月6日付で市川教生宮司となる)

7月6日曜日 内田前宮司、酒々井町中川、岡田光三氏宅へ転居

7月7日月曜日 新旧宮司退任および就任奉告祭および業務引き継ぎ、午後町有志主催歓迎会、山下とよ臨時雇い

7月9日水曜日 午前中植草氏来る、町長を招き神社今後の基本方針樹立につき協議致したき由、午後二時鈴木、宮吉、岡本、

予報では午後より晴れ上がるらしい、集まりは悪い、30分遅れて祭儀を開始、奉仕員宮司、時田、小田、早乙女、海上、小笠原、天羽、最初の大祭の故慎重を期してなす、河崎、杉井、小川各先輩参列、時田氏の典儀で要領よく進捗する。

発御は午前10時半で11時半には5社出張、供奉して五所に至り正式渡御は1時半に終了、各自の町渡御は2時より開始、午後の晴天と相まって境内雑踏する。夜間社殿侍候池田常吉、石橋銀作両氏

10月4日土曜日 午前10時一の宮入り等夢物語、納まる気配なし、午後3時一の宮も祭典掛を呼び催促する、すなわち5時10分納まる、直に一の宮より二の宮に連絡、8時過ぎても還御せず8時半神社より催促、追って池田、時田両氏に連絡を保って貰う、12時還御

10月5日曜日 三の宮は2時還御、四の宮は5時半還御、五の宮9時還御、鳥居前休憩所における祝詞奏上奉幣後、一の宮より本宮入り一の宮は町内へ持ち還りたるも11時ころ本宮入り、次いで他の4社は順調に宮入り完了は12時ころ後職員、手伝い人の直会をなす

10月9日水曜日 総選挙が1日に終り市原郡出身立候補者が総崩れの上、始関氏は違反が発覚、鈴木町長も関係し八幡署へ留置さる。困ったものだ

10月25日土曜日 漁業組合(倉庫)地鎮祭奉仕

10月26日曜日 菊間村大願の供養、午前9時助勤に出向(中略)近き将来八幡にても執行さるる予定とか非常に参考になった、帰宅7時半

10月29日水曜日 町長はまだ出処しない由、同情に絶えない。早速の出所を祈念する

11月15日土曜日 町合同七五三祝いは公民館で90名余り参集して行う。当方は会式終了後各町内ごとに昇殿させ、神前の行事をなしお祝袋を授与せり、単独の参拝は5名ほど

植草氏、町長来り協議す

7月21日月曜日 公民館にて夜、枯損木伐採協議会

7月22日火曜日 浅間神社例祭、午前9時祭儀執行、市川宮司奉仕、花火余興あり

7月24日水曜日 早朝三山登山行者46名参拝修祓をなす

7月25日金曜日 夜公民館に映画会あり、婦人会主催

7月26日土曜日 午後1時公民館で社会福祉協議会結成式に参加

8月6日水曜日 市原市教育出張所落成式に参列す

8月15日金曜日 夜分グラウンドに盆踊りがある由

8月21日水曜日 今日から(町営グラウンドで)郡下ガールスカウト、ボーイスカウトのキャンプあり

8月24日曜日 郡青年団競技大会、町営グラウンド

9月3日水曜日 午前10時枯損松入札、役場より町長、根本両氏来る、宮吉、石井、杉山、植草、勝各総代人立合い、開票の結果、12万1千円をもって白鳥孝治氏落札

9月8日月曜日 枯損木清祓式、植草惣代参列の午前10時執行、11時三山人先達記念碑除幕式を挙る

9月19日金曜日 八朔会議午後1時、出席者総代8名、祭典掛20名、渡御時間の変更が去年と異なり、翌日午前10時と決定

9月28日曜日 神輿飾り付け池田常吉、山下、石橋、時田氏来る、午後3時半一の宮神輿御遷宮、時田氏助勤、宮吉、鈴木、浅野、植草、石井、杉山、勝各総代来社参列、直会は魚惣

10月1日水曜日 衆院選挙出参投票す

10月2日木曜日 四神台祓戸その他大祭組み立て物着手、池田常、石橋、山下、時田4氏来る、前夜祭時田氏助勤、午後9時奉仕、中学校長の請求により朝礼の際、神社に関する講話をなす

10月3日金曜日 秋季大祭4時半起床、曇天なれどラジオの

11月18日火曜日 緑週間のヒマラヤ杉50本、町および地方事務所の幹旋で植樹、婦人会会長来る、七五三詣のみやげの返札

11月20日木曜日 市川石三翁88米寿の参拝をなす、いつもながらの健勝賀すべし

12月31日水曜日 元旦雑務準備に追われる。大祓式午後6時引き続き除夜祭、宮司奉仕、平穏日和の大晦日である

昭和二十八年

社務日誌

飯香岡八幡宮

昭和28年(1953)市川教生宮司

1月1日水曜日 元旦祭、午前10時執行、(八幡公民館での)町主催名刺交換会の直前に行う。宮司奉仕、参列者、鈴木氏子惣代、町長代理岩田助役、菅野県会議員、町会議長、中、小学校長、祭典掛、警防団長、外約官、公衛関係者50名、一般参拝者相当あり、国体再認識の気風漸々隆興の兆しありか

1月10日土曜日 午前11時金刀比羅祭執行、参列者宮吉、勝、中西、浅野、杉山、石井、植草各総代、菅野県議より清酒一升届く

1月12日月曜日 午後仲片町海苔祈願祭執行

1月13日火曜日 古谷金口氏団体行動にて公民館に見学に来しかたがた挨拶に寄る

1月14日午後6時鎮火祭宮司奉仕、中西惣代参列、風強きため3分の1ほど焚き上げ後は明日とする

1月15日水曜日 簡粥行事午前9時奉仕、飾りの残りを焚き

上げる、両日とも山下氏に依頼

1月23日金曜日 町議長島利夫、宮原政雄氏、植草惣代とともに夜分来社、要件は町保育園建設のため社務所を移転しその後を借用したいと申し込み

1月26日月曜日 鈴木町長より呼出しあり保育園の位置はグラウンド側と決定し社務所は関係なしと

2月3日火曜日 節分祭午後7時執行、年男浅野、植草、岩田助役300名以上の参拝者で昇殿不可能なため拝殿前にて撒豆および福引券を撒く、おわって直会

2月5日木曜日 県社会教育課へ出張、公孫樹の保護施設補助金1万円の認可下る

2月9日月曜日 卯の日祭午前10時宮司奉仕、町内祈禱札1000枚用意、午後片町祈禱祭

2月11日水曜日 神社音楽レコード小学校へ届け巫女舞候補者を選抜して貰うことにする

2月14日土曜日 旧正月なり、参詣その他大したことなし

2月28日土曜日 この日町保育園地鎮祭宮司奉仕

3月6日金曜日 巫女6名交渉済み、7日練習と決定、スターリンついに死す、国際情勢一大変換か

3月10日暖かし、海苔景気もそろそろ下り坂となった、収穫量は少なかつたが相場が良かったため金額はあがったらしい

3月15日月曜日 春季大祭午前10時執行、奉仕員宮司、時田、和田、天羽(中略) 参列者町長、県議員その他約50名

(中略) 本年は古儀にのっとり神輿の飾り付けはせず

3月21日土曜日 村田川改修工事地鎮祭午前10時現場において執行、柴田知事、参議員、県議員その他100名参列、強風のため閉口した

3月26日木曜日 午後1時丸山、志賀家結婚式宮司奉仕、公民館の生活改善と結びつき、進展に入りたい

3月28日土曜日 保育園上棟祭午後4時執行

7月3日金曜日 公民館運営委員になれとなり、田中主事よりの言なり

7月5日日曜日 夜(公民館の) 青年学級開講式に参列、郷土史の講座をせよとなり

7月6日月曜日 午後公民館にて教育委員会開催、文化財保護委員会設置の事項につき懇談

7月10日金曜日 公孫樹病害に関し県林務課より米村係官出張、第二次的現象を呈しているという。衰弱に虫害が加わったものさうだ

7月11日土曜日 浅間神社大祭午前10時宮司執行、絶好の日和なり、余興は浜本青年団の囃子連と花火45発を上げる、グラウンドで野球大会、公民館で舞踊会など賑やかなる、花火は海岸で行なう

7月22日水曜日 今日公民館副館長の委嘱を受ける、随分断つたが結局受けることにした。

7月26日日曜日 公民館料理実習生のお手並を会食し館長と懇談する

7月27日月曜日 公民館青年学級で夜郷土史の講話をする

8月2日日曜日 今朝よりラジオ体操会を始める

8月10日火曜日 夜(公民館の) 青年学級において郷土史を講ず、5名来る

8月14日金曜日 午後と夜公民館映画会に手伝いに行く

8月22日土曜日 夜公民館運営会

8月27日木曜日 文化財研究会へ出席

9月13日日曜日 青年学級閉講式に臨む

9月19日土曜日 夜公民館にて警察署と各町役、16人持ち、青年団との懇談会を開催

9月22日火曜日 例祭午前九時半執行、半時間のずれなり、献幣使河崎副庁長、随員大木、助勤時田、小田、早乙女、海上4氏、(中略) 参列員町長、菅野県議、柳橋調製者、市川石三

3月30日月曜日 岩淵、関原家結婚式公民館にて執行、婿方の叔父逝去のため20日間服喪のため神社において執行するを遠慮せしめたためである

4月1日水曜日 今日公民館で立候補立合い演説会が開催

4月2日木曜日 中西、清水両氏立合い、一の宮新旧神輿寸法を量る、高さにおいて1寸、屋根巾において1寸5分、鳥居高さにおいて一寸5分大、原型通りとは仲々むつかしきものなり

4月3日金曜日 四の宮祭典掛、堀口、大場、田山、村越氏来る、修祓の由神輿を開き量る、ついで榎の枯損木を見る、腐食が甚だしい神輿神調に関しては各町へ渡りをつけた由

4月11日土曜日 小中学校新任退職教員歓送迎会を公民館にて開催、宮司出席

4月12日日曜日 そろそろ観光客が納涼台に来る季節となった

4月19日日曜日 投票日、ただし衆議院の方なり、八幡で投票する、出足は大へん宜しい、始関伊平氏当選

4月30日木曜日 午前中漁業組合海苔乾燥倉庫竣工式挙行

5月6日水曜日 両陛下下房総御巡幸、10時半ころ駅に(列車通過を) お出迎え申し上げる

5月14日木曜日 潮干狩り団体が来る、境内を汚す困つたものだ、引率者の指導によりいかにでもなるものを

5月15日金曜日 保育園落成式公民館に挙行、宮司出席

5月31日 公孫樹の枯れ死は幹中に昆虫の巢食うがためらしいとともに肥料不足も原因らしい

6月4日木曜日 公民館石井主事と立ち話をしたが公民教育に關してはなかなか多事多難な現状らしい

6月30日火曜日 今日のは町のさなぶり合同祭を公民館で開催、三つの歌のNHK宮田 輝、天池正雄、越山あつ子の3人が来幡大へんな賑やかさ、川上一之氏来り、公民館副館長の問題なり、神社の基礎未固定の折柄考えさせられるものなり

氏ほか30数名、外氏子総代、祭典掛40余名、一の宮は予定時間より5分遅れ10時5分還御したが二の宮は氏子総代2回に及ぶ交渉にも還御せず、ついに一の宮は憤激の余り自町へ持ち帰り二の宮が23日午前3時に還御したるも一の宮これに応ぜず、ついに2日間となりしは誠に遺憾なり

9月23日 三の宮、四の宮、五の宮と還御、本官入りは午後7時20分完了、1日祭儀の期待は完全に裏切られたわけだ

9月25日金曜日 台風13号中部地方に上陸、関東も余波を受け夜間に入り相当あれる

9月26日土曜日 高波が押し寄せ五所の堤防が決壊したと早鐘が鳴る

9月27日日曜日 夜公民館運営委員会に出席

10月7日水曜日 公民館で拓本講習会に出席

10月25日月曜日 神社庁総会公民館にて催行、本庁より富岡理事、神社庁より額賀庁長、来賓菅野県議、地方事務所長、会員60名、計88名来会、午前10時開会、午後3時半終了、懇親会は公民館にて行う

10月26日月曜日 夜公民館にて凶作対策会

11月10日火曜日 夜公民館にて凶作対策座談会に出席、8名の出席とは情けない

11月15日月曜日 午前中七五三合同祝い公民館行く、185名とは昨年の約倍数、神社においてはお祝袋を授与する

11月24日火曜日 夜公民館審議会に出席、門松問題に一言弁ずる

11月28日土曜日 公民館視察員、応接のため初めて出向、町長、助役、小学校等同席なかなか難しきものなり

12月1日火曜日 正午すぎ公民館視察員応接に出かける

12月8日火曜日 公民館千葉県大会出席のため姉崎町公民館に出張、当町より田中、山中主事同行、聞きしにまさる公民

館なり(前出)

12月19日土曜日 夜公民館運営審議会に出席
12月27日土曜日 本日参院補欠選挙の立合い演説会が公民館にて開催
12月31日木曜日 日よよい大晦日、(中略) 年神様授与に専念、除夜祭官司奉仕、終夜社殿開扉

昭和29年(1954)市川教生(官司)

1月1日金曜日 元旦祭午前10時官司奉仕、町長、県議員、町議長その他約50名参列、植草総代に玉串奉奠の進行を頼み無事終了、絶好の快晴、社参者多し、本年の前途を祝福するのごとし

1月3日土曜日 午前11時氏子惣代会議、市原市より3名来社、町長、県議欠席、懇談程度の新年会である。なお9時水神官祭を執行

1月10日土曜日 初金平祭午前11時執行、小雨が朝の内降っていたため拝殿で遥拝の形を取り公民館で直会の予定だったが止んだため外で行ない直会は社務所で行なう、会費150円会員35名、ただしこんな神をだしに使った飲食会式の金平祭などまっぴら御免だな

1月13日水曜日 平田吾一君、浅野総代来る。八幡の海苔収穫減1億円と推定されるそう

1月14日木曜日 鎮火災午後5時奉仕、中西総代参列、山下氏に手伝い依頼、無風曇天の夜空を焦がしつつ神火は午後9時完全に炎を滅し、近年にない好天の下無事に終了。今日消防出初式

1月15日金曜日 筒粥行事午前8時奉仕、仲片町海苔業者祈願祭等あり公民館の成人式には参列不能

1月20日水曜日 参議院補欠選挙施行、立候補者は伊能繁治

郎ほか3名

1月21日木曜日 選挙の結果、伊能繁治郎19万票で、次点加藤関男を6万票離して当選、まず順当というところ

1月31日土曜日 市原区阿須波神社鳥居再建のため出張奉仕

2月3日水曜日 午後6時半節分祭執行、石橋銀蔵氏年男を奉仕

2月4日木曜日 南町、新田町、神輿新調結末の参拝、午前10時執行、片町の卯の日祭に参加、場所は公民館

2月7日土曜日 観音町出途稻荷神社初午祭午前中奉仕

2月11日木曜日 紀元節祭午前9時官司奉仕

2月20日土曜日 植木祭午前10時執行、(中略) 参列者全員が鉢をもって境内に植樹し、公民館で直会をした

3月3日水曜日 公民館の雑祭りに参列、該当児は8名

3月10日水曜日 午後7時公民館において氏子総代、祭典係合同会議を開催し、本殿屋根修理の件協議する

3月15日土曜日 午前10時春季大祭執行、官司、時田、天羽奉仕、(中略) 参列者町長、県議、助役、教育委員会、町議会長、市原村総代約50名、年番町内は浜本町、余興は午後8時まで

3月16日火曜日 午後ヘリコプターがグラウンドに来ると大賑わい

3月29日月曜日 夜(公民館での) 青年学級終講式に参列

4月3日土曜日 天然記念物公孫樹の芽生えもこのところ順調なり、再生を祈るや切

4月26日月曜日 午後(公民館での) 婦人会総会に顔出しする

5月5日水曜日 文部省文化財保護委員会事務局橋本技師及び乾係長本殿調査のため来社、官司立合い、乾係長曰く室町末期の建造物、鏡の間の柱は室町のもの、幣殿、拝殿は新し、本

殿は国宝物なり、終って社務所において休憩せず直に白鳥にて鈴木、宮吉総代人及び鈴木町長と昼餐、なお屋根改修工事は一時見合わせられたき旨注意ありたり

5月9日土曜日 午前中母の日の会に出席のため公民館に出席、久々に菅野県議に会う

6月3日木曜日 本日文化財保護委員会より本調査に来社する日なり、(中略) 午後3時半過ぎ調査団到着、田辺委員、内山

助手、橋本技官、以上文部省側、平野係長、高橋係員と午前中来社の野本写真師とで計6名、これに対する当方として役場側

より町長、収入役、浜田主事、丸山教育委員長、織田委員、これに菅野県議、白鳥孝治氏の7名、神社側から官司、中西、浅

野、石井、杉山、宮吉、勝、鈴木、植草の9名、計22名となった。調査はまず申請書記載の鎌倉期のものでないこと、室町

も足利義明時代のものらしいが、あるいはその後建築されたものらしいこと、などを挙げ実地調査となった。外々陣、外陣、

勾欄廻りをみて結局600年は経過しない、450年代だろう、(中略) 結果は甚だ悲観的だった、ただ千葉県に社殿建築として

の指定が1社もない現状が唯一の取り柄ということになった。終って白鳥旅館において晩餐会を行ない先生は午後10時半お帰りになる

6月19日土曜日 夜青年学級運営会に出席、議論沸騰して夜半に至る

6月20日土曜日 午前中白鳥孝治氏来る、公民館田中主事の昨夜の批判をする

6月26日土曜日 今朝早々町長より呼出しがあり、鈴木敬介惣代宅にて面会、田辺泰先生より24日審議会の結果報告が速達で来ていて種々難点はあったが合格したとのこと、まずは

万々歳であった

6月27日土曜日 朝日、毎日の朝刊紙および千葉新聞紙上に本宮本殿が国文化財に26日指定された記事が載る

6月30日水曜日 浅間神社例祭午前10時執行、年番は観音町、(中略) 午後4時若宮神輿新調記念除幕式を挙行、揮毫者市川石三翁珍しく参列

7月4日土曜日 公民館で菅野県議員に面接、文化財指定に

関して心から御礼をいう、喜んでいてくれた

7月11日土曜日 午前11時文化財保護委員会第二分科会

長藤島亥治郎東大工学博士、橋本技官外助手2名本殿視察に来

社、町長、宮吉、鈴木両総代と白鳥において接待、大へん気分

よく帰る(中略) 藤島委員談、義満奉納の神輿は元禄時代のも

の、義満は梧桐の紋章は使用せず、また同時代の梧桐の紋章と

規格が異なっている。金具は元禄時代のものであると判定する

7月12日月曜日 本日土地改良区完工祝賀会が公民館で挙

行された

8月19日木曜日 今晚公民館で鈴木敬介、鈴木日定両候補の

立合い演説会が開催される

8月20日金曜日 選挙前の街頭演説たけなわである

8月21日土曜日 本日町長選挙である、早朝投票を済ませ

8月22日土曜日 町長は鈴木敬介氏子総代が当選

8月27日金曜日 新旧町長送迎会を公民館にて開催、出席す

る

9月11日土曜日 秋季大祭午前8時執行、献幣使林参事、随

員大木主事、神輿出御9時より、本年は五所まで渡御する

9月12日土曜日 午後12時に至るも一の宮に次ぐ二の宮

の還御をみず警官の介入となる、各町祭典掛代表と午前1時半

出頭、明朝7時より正午まで延期の黙認を得て帰る。官入りを

終了したのは午後6時過ぎであった。

9月27日月曜日 昨夜の暴風で青函連絡船洞爺丸座礁転倒

1000余名の死者を出す。世紀の痛恨事なり

10月5日火曜日 午後1時志霊塔地鎮祭執行、郷友会長川上

一之氏外町長、助役、県議員各支部長等

10月9日土曜日 漁業協同組合海苔豊漁祈願祭午後1時執行、終って海面鳥居前において大祓敷き執行
11月1日土曜日 夜久々に公民館運営委員会に出席
12月13日月曜日 公民館書道会開始出席
12月17日金曜日 夜公民館の演劇の整理手伝い
12月24日金曜日 海苔が大凶作、元旦に祈願祭をせねばならない
12月31日土曜日 大祓式、中西惣代参列、除夜祭宮司奉仕、午後7時、徹夜

昭和30年(1955)市川教生官司

1月1日土曜日 元旦祭午前10時半執行、中西、浅野、石井、杉山、勝、植草各総代、鈴木町長、菅野具義、丸山教育委員長、鈴木町会議会等50名参列、兼て海苔凶作打開祈願を執行、無風、絶好の日より境内終日賑わう
1月10日月曜日 初こんびら祭午前11時執行、菅野具義より御神酒1本賜る、参列者16名、来年度は盛大に執行する申し合わせをする
1月11日火曜日 田中公民館主事離任の送別会に出席、なお成人式は神前で宣誓を行うことになった
1月15日土曜日 午前11時先陣式執行60名参集、町長(代助役)、公民館長参列、守札、パンフレットを贈す
1月20日木曜日 公民館で菅野儀作後援会が結成された
2月8日火曜日 八幡、市原、菊間合併成らず、八幡、菊間だけ3月31日にするそうだが、町名は市原町とする由、午後選挙立合い演説会、公民館で開催される
2月18日金曜日 午後1時忠霊塔完工式、郷友会主催で齋行
2月20日土曜日 岸信介街頭演説に来る、衆議院選たけなわなり

8月30日火曜日 夜公民館運営審議会に出席
9月8日木曜日 町会選挙本日告示
9月15日木曜日 老人の日、公民館の招待を受けたが午後庚申祭準備のため欠席
9月22日木曜日 夜公民館において青年団幹部と懇談会をなす、岩田助役町長代理として出席する
9月23日金曜日 揮殿工事一切完了
9月24日土曜日 川上南洞先生銅像境内移転着工、清祓式をなす

9月30日金曜日 秋季大祭午前9時執行、献幣使松井千葉神社官司、助勤(中略)、参列者町長、始関前代議士外70余名、この日天気次第に良好となり渡御も雨の心配もなく進む
10月1日土曜日 ただし午後12時までの還御は二の宮の具合で中止となり警察署の希望により12時以後お飯屋に納め、翌1日午後2時の一の宮より還御し五の宮は12時過ぎとなった、官入りの済んだのは1時半過ぎであった
10月11日火曜日 町会議員投票日迎える、盟友川上一之君最高点投票、総代中清水幸一氏当選
10月23日土曜日 社会人体育大会参加につき役員一同神前に拝礼、南総町へ向かう
11月3日木曜日 文化の日祭宮司奉仕、境内に黒松250本を戦時中献納した市津村高石精一氏に対する感謝状贈呈式を町民体育大会の席上で行ない、神社で奉告祭をする
11月6日土曜日 新海苔奉納さる、浜本町の市川道喜氏である

11月10日木曜日 川上南洞先生銅像境内移転完了、漁業組合豊漁祈願祭執行
11月13日土曜日 神立祭午後6時執行、参列者(中略)今年は雅楽レコード演奏を行なう、スピーカーは芝崎商会提供、比較的暖かく無風、相当の人数があつた

2月21日月曜日 早大考古学教室大川清外学生2名、市原市光善寺遺跡調査のため本日より3日間逗留、宿舎は公民館を借り、実地調査に立ち会う
2月27日土曜日 衆議院選挙
2月28日月曜日 開票の結果、民主党第1党となる、始関候補落選
3月15日火曜日 春季大祭、重要文化財指定奉告祭午前10時執行、(中略)参列者菅野具義、鈴木町長、前鈴木町長、林参事等約50名、終って公民館にて祝賀式
3月31日八幡町と菊間村合併、市原町となる、公民館で祝賀会もあるも降雨でまことにしめやかな1日であった。

4月23日土曜日 県議会議員選挙日(中略)投票、菅野儀作氏の当選を祈るや切

4月24日土曜日 菅野儀作氏1万3000票を獲票して最高点当選大賀大賀
4月26日火曜日 鈴木前町長千葉国立大学に入院中に付、病氣見舞いに行く
5月6日金曜日 潮干狩り生徒3000に及ぶ、境内の一部も休憩所となる
5月9日月曜日 夜書道会のことゝ浜田白舟氏と公民館で遊ぶ

5月11日水曜日 町長選挙が8日に告示さる。官吉長門氏立候補、まず無難な候補者なり

5月13日金曜日 官吉長門氏無競争当選する、夜お祝いに招かれる

5月30日月曜日 新旧町長送迎会に午後出席

7月1日金曜日 警察予備隊音楽隊境内で演奏
7月2日土曜日 郡北部中等野球大会がグラウンドで開催さる
7月4日月曜日 このところ大風続き、夜菊間農協火災
7月9日土曜日 夜公民館運営審議会出席

11月15日火曜日 (公民館で)七五三合同祝い、午前11時神前行事162名、祝袋に7才子にはノート1部ずつ贈す
11月18日金曜日 市原郡豊年感謝祭を29日より4日まで公民館で開催、境内に農機具市を立てるそうだが
12月23日金曜日 海苔凶作決定的、財政融資は県が斡旋することとなる

12月26日月曜日 風雨明け方よりあり、海苔のため好影響を及ぼすことならん

12月30日土曜日 年神幣の窓口授与をなす、昨年ほどならず海苔の凶作が祟ったか

12月31日土曜日 除夜祭、大祓式執行、大祓式は午後5時中西惣代表として参列、除夜祭午後7時宮司奉仕、年神幣もどうやら例年並みに出る。徹夜

昭和31年(1956)市川教生官司

1月1日土曜日 午前0時号鼓、5時半雅楽レコード演奏、午前6時号鼓、午前10時元旦祭、海苔凶作打開祈願祭宮司奉仕、町長、町会議員、漁業組合長以下30余名参列、参詣人例年通り、終って(公民館での)町賀詞交換会開始、出席する
1月2日月曜日 町内年始廻り

1月3日火曜日 午前11時より八幡、市原、両神社合同新年会出席者中西、浅野、石井、杉山、官吉、勝、植草、山越謙蔵、山越茂市、森操、白井喜一の諸氏
1月6日金曜日 海苔ようよう取れ始める
1月10日火曜日 金刀比羅神社祭礼午前11時執行、官吉町長、千葉銀行篠崎支店長、市川商工会長など15名参列、終りて社務所において直会

1月12日木曜日 町営住宅地鎮祭午前11時執行、官吉町長以下関係者参列

1月14日土曜日 鎮火祭午後5時執行、同5時半御焚き上げ
1月15日土曜日 粥粥行事午前9時執行、午前11時成人式
(公民館での式典の後) 神前宣誓の儀執行
2月4日土曜日 節分祭午後6時集合、6時半開始、7時撒豆、
福引、万歳三唱、手打ち式、解散、年男岩田万右衛門氏外46
名

2月6日月曜日 卯の日祭宮司奉仕
2月18日土曜日 午前10時菊間中学校校舎地鎮祭奉仕
3月5日月曜日 中学校上棟式執行
3月13日火曜日 八幡浦干拓汐止め式午前11時半執行
3月15日木曜日 春季大祭午前10時執行、宮司(中略)
奉仕、町長外50名参列、11時半終了、直会、町長、町会議
長、福祉事務所長外町内有志参列

3月25日月曜日 午後2時菊間中学校上棟式
3月29日木曜日 新村田橋開通式、夜山木青年学級閉講式に
参列

4月4日水曜日 (公民館での) 中学校入学式参列

4月21日土曜日 教育長歓迎会に出席 (公民館)

5月6日土曜日 濃魂塔除幕式奉仕

6月2日土曜日 午後2時公民館の学校生徒書道会に出席

7月1日土曜日 午前10時より公民館にて万葉地理研究会、
小倉助役、今井福次郎、鈴木雅彦先生来演、午後市原台地視察

7月8日土曜日 浅間神社例祭午前10時町長代理加藤収入
役参列、講員30名、余興魚惣奉納演芸、花火30発、本日参
議院議員選挙あり、地方区片岡文重、伊能繁次郎当選、

7月17日火曜日 観音町富士講員祈願祭執行、46名

7月19日木曜日 浜本町富士講員14名登山安全祈願祭執
行

7月21日土曜日 三山人出立奉告祭並びに水行(出立は2
3日なり)

11月15日木曜日 七五三合同祝11時奉仕、160名

12月13日木曜日 日本、国際連合加盟、本日国連安全保障
理事会において正式に満場一致をもって可決さる

12月22日土曜日 公民館山中主事補送別会
(12月31日は記載なし)

昭和三十三年

社務日誌

飯香岡社務所

昭和32年(1957)市川教生宮司)

1月1日火曜日 元旦祭午前10時執行。中西、浅野、石井、
勝、鈴木、植草、杉山各総代人、菅野県議、宮吉町長、外30
名余、参列執行する。十一時半浜本町水神様新年祭宅司奉仕、
午後県議、町長宅に年始に参上、公民館年賀会に出席

1月8日火曜日 極めて平穩、午前10時より境内弁財天、巖
島神社遷宮祭宮司奉仕、これは南町第1部落の信徒等が防火貯
水池を兼ねて神池をコンクリートに装行し社殿修復、鳥居、神
橋改修したもので青木吉兵衛氏委員長となり安藤義次氏、田山
正二氏、鈴木弥七氏、川上一之氏等発起人となり町補助金、都
内縁故者等寄進等を求めて本日盛儀を見るに至ったのである。
花火、余興の接待等股賑(いんしん)を極めた。

1月10日木曜日 初金比羅祭10時執行、氏子惣代始め講社
員約40名参列、盛大裡に終了

1月14日月曜日 鎮火祭執行午後5時、中西、植草両総代参
列、お焚き上げ終了は午後9時、まれにみる静穏な日で無事終
了したことはめでたい

7月27日 金曜日 夜境内にて森永の映画会あり

7月31日 火曜日 昨夜より境内雪洞(ぼんぼり)点灯

8月8日 水曜日 一の宮神輿修理に着手

8月17日 金曜日 グランドにて郡青年団の競技大会あり

8月19日 月曜日 郡民体育大会総合グラウンドにおいて行わ
れる、市原町第4位なり

8月23日 木曜日 海苔柵場割り抽選に早朝より騒がしい、海
苔組合祈願祭執行、午前10時

8月31日 金曜日 三の宮神輿修理完了

9月5日 水曜日 八朔会議午後3時開催、出席者祭典掛22名、
総代人7名、小倉助役、松井警部、1日渡御と決定

9月8日 土曜日 献納俳句会公民館において催行、奉納俳句会
公民館にて開催

9月19日 水曜日 ラジオの天気予報全々外れ雲薄れつつ絶
好の天候となる。御神威の程申すも畏し(中略)、午前8時半
柳橋到着、9時開式、献幣使松井千葉神社宮司(中略)神輿の
渡御は10時正確に一の宮も発、正式渡御は1時に拝殿前に一
旦還御、ただちに町内渡し、午後より人出雑踏する。各町内よ
りの還御も一の宮午後10時15分過ぎ、問題の二の宮もある
程度強く指導されたので定刻11時を1時間超過し、12時鳥
居前へ還御、三、四、五と順次後れ、2時半入御を了す、私終
戦以来11年にして1日渡御が実現したわけだがここまで漕
ぎつけるには警察署、町長、総代、祭典掛努力に負うところが
大であった

10月25日 木曜日 午後7時より氏子慰安演芸大会開催、こ
れに関しては清水総代人の労苦に負うところが絶大なるものあ
り、聴衆約1000人公民館埋まる

10月30日 火曜日 東電工場地鎮祭のため蘇我へ出向

11月12日 月曜日 午後7時七五三合同祝打合せ会に出席、
公民館

1月15日 火曜日 成人式神前宣誓の儀午前12時執行、八幡
菊間、市原地区成人約80名昇殿執行、宮司精神講話をなす。
(市原町当時の成人式は公民館での式後、打ち揃って八幡宮に
参拝した)

2月3日 日曜日 節分祭午後6時歳男集合、同6時半開始、7
時解散、年男50名、欠席13名

3月15日 金曜日 快晴の下春季大祭午前10時執行、奉仕員
(中略)参列員菅野県議、始関前代議士、大野造船所長、共進
運輸専務中森茂樹氏、高山町議会議長他約50名、無風快晴に
恵まれ、境内の玄人演芸が架設舞台で行われ稀に見る盛況、御
神徳の弥栄(いやさか)を如実に実現、ありがたき極みである。

ただ惜しむらくは四神の台が倒れ青龍以下の彫刻が損傷した
ことである。余興は夕刻終わる。まずまず上々の祭であった。

3月21日 木曜日 午前10時忠霊塔前において八幡地区の
慰霊祭を執行する。

3月25日 月曜日 ヒマラヤレーダー50本中西、木村両氏に
依頼して植える

4月4日 木曜日 小倉助役来社、表鳥居参道側の枯損松伐採生
木一本移植しバスの回転に便ならしめることを打ち合わせ

4月8日 月曜日 夜公民館にて楠原氏顕彰会発起人会打合せ
会に出席

5月3日 金曜日 田舎より海遊びに来る潮干狩りのバスこの
ところ連続に来る

5月5日 日曜日 夜(公民館での)鈴木貞一氏公民権復活祝賀
のため出席

5月6日 月曜日 (公民館での)小学校PTA総会に出席

5月16日 木曜日 潮干狩りの生徒等が境内で汽車の時間ま
で休息するが躰が悪いのは目に余るものがある。井戸水の使用
法から樹木を損傷することなど、先生は無関心でいる。現在義
務教育を受けている子供がこうである。いわんや社会に飛び出

した一介の青年となった者の行動が常軌を逸することは火を見るより明らかなことである

6月4日火曜日 海面埋立て補償金の問題で呼出しがあり、公民館の談合会に出席、海苔業者は200万円、あさり業者は30万円だが50万円にするというのである。一体このブームが将来町民にいかの影響してくるであろう

6月18日火曜日 海面埋立て問題も君塚漁組が県当局と妥決し、今月中に関係組合が全部妥決完了し、埋立てに着手するらしい。思えば郷土に海幸と多年供給し来た袖が浦も近代化による時運と流れに同調して京葉工業地帯の一環として再生する段階に突入することになった

6月21日金曜日 植草辰五郎総代人来る。海面鳥居を今後埋立てに際して移転補償金懇請したらいかかとの話あり、石井総代人も同席、近日中総代会開催することになる

6月28日金曜日 浅間神社例祭(旧6月1日) 折悪しく夜来の雨で式は本社や神輿を飾りつけて行方。そこで直会、拜殿で囃子を叩く

6月30日月曜日 海面一の鳥居の埋め立てによる処理方陳情の件協議。この問題については正組合員、準組合員の補償金額問題で摩擦を生じている際、勤めて刺戟をさけるため、町長、県議、組合長などに口頭をもって相談した方がよろしいとの結論に達した

7月2日火曜日 海面鳥居を埋め立ての際、いかにすべきか、また現社前鳥居より埋立て護岸地帯まで見通し道路の設定要望などのことに関して町や一部識者の意見として出ていたが、これを官司の立場においていかに処理すべきかはかえって重要問題である。よって協議機関である氏子総代会を先月25日に召集し、協議の結果陳情書作成を官司に一任した。(中略) 陳情書案検討を行ないたるも補償金配分問題を廻って微妙な空気が流れている際、よほど慎重を期さねばかえって一般の

秋季大祭も滞りなく終了し、かつまた一日渡御祭を実現し一粒の雨さえ神輿にかけず、警察官の干渉も受けずまったく奉仕以来の上々の秋祭りであった。ひとえに神明の冥助(みょうじよ)を感謝するのみ

9月14日土曜日 午後二時より惣代会議。今朝鈴木万蔵氏来社、漁組理事宮吉政雄氏の勧告もあり、補償金問題に関し、組合幹部に神社へ心配して貰うよう懇願すべしとのことであつたからこれを議題とする。結局組合事務所へ出向き、組合長に面談、懇談する

9月15日火曜日 今日公民館で漁業協同組合の臨時総会を開催、いよいよ埋立て補償の額を了承するに至つた。総額12億5000万円という。個人最高額が204万円という。あさり業者でも41万5千円という。分割払いになるといっても、まずもって補償金ブームが到来する

9月27日金曜日 五井、市原市海面埋立てに伴う五井方面の起工式を午後二時五井町出津海岸にて行う

9月29日火曜日 小学校運動会にPTA理事役のゆえをもつて補助に出向、審判役を仰せ付かる、あいにくの降雨で半日で流会となる

10月1日火曜日 小学校運動会後半を本日午後続行、ただし出ず

10月25日金曜日 この日八幡浦埋立て補償金を全組合員に1割支給する

10月26日土曜日 境内で余興舞台、公民館で商品展示会を市原町商工会で開催する。雨天のため余興は素人演芸のみ

11月6日水曜日 新村田川鉄橋架設工事地鎮祭奉仕、主催東鉄工業株式会社なり

11月21日木曜日 神立祭午後5時執行、(中略) 露天商の話によれば本年は昨年比し人出は半数だという、風邪流行のためなりと

誤解を招く結果になるから町長なり県議員なりに陳情書の提出に關し意見を求め、よろしいとのことになればその際考慮することとし、とりあえず本2日さらに会合し役場に町長を訪問することとした。ところが早朝織田氏が見えられ、中村幸生氏が県議員を訪問した際、陳情書のことを話したところ護岸地帯まで見通し、道路設定以来の趣旨のみの陳情書ならば差支えないとの意見だったそうであるが、未だ埋立ての正式調停も行われぬ現在、あまりにもかような手を打つことは他への打撃を与える憂いが多分に見受けられるので陳情書案を確定し、将来埋立て実施の際問題として浮かびあがったならば手配を講ずる程度に留め置くが至当ではなからうかというのであつた。よつてこの点官司である自分としても神社が余り深入りするを警戒の要があることを認めておつたので午後の協議の際この線を進めることと決し、取計つたところ右の線を確認し役場には出向かずにした

7月17日水曜日 八幡浦埋立て工事も遅々として交渉進まず

8月15日木曜日 海面埋立て仮調印、午後四時まで公民館で行われた。八幡が歴史的転換を来す第一歩

8月16日金曜日 納涼祭を商工会主催にて行う、久々の余興の催しで大へんな人出

9月8日火曜日 秋季大祭午前9時執行、ただし約半時間のづれを生じ神輿出御は午前10時から10時半ころとなる。奉仕員(省略) 参列員町長、県議員、全氏子惣代、始関伊平氏等約50名昇殿、講社は鈴木正二氏外5名来る。一の宮午後11時半、二の宮午前1時50分、三の宮2時半、四の宮3時、五の宮3時半御旅所に納り、本宮入りは午前4時10分過ぎをもつて完了。宮吉氏子惣代の首頭取りによりて手打ち式を行い解散、遷霊行事は神社限りにおいて行う。なお総代、各町祭典委員長は社務所にて冷酒、のり巻等で簡単な直会をして解散(中略)

12月1日火曜日 このところ海苔作全滅の形、地網だけについた種から僅かに取れる程度、1帖110円もしてはかえつて大変なことだ

12月12日木曜日 市原町有線放送協会放送所地鎮祭官司奉仕

12月13日金曜日 午前9時ころより強風となる。拜殿南側屋根の一部、瑞垣の屋根一部(中略) 温暖なるため海苔も全滅ならん、拜殿社号額外れ硝子破損する

12月27日金曜日 山木、若官間町道改修起工式、午後1時執行、官司奉仕

12月30日月曜日 海苔は本年は大外れ、ただし移植の一朝物の網と地の芽がついた分は採取できるが全国的の不作、八幡はよい方である。これがため相場は1帖100円以上しているという

12月31日火曜日 大祓い式午後5時執行、中西雲吉氏参列、除夜祭午後8時官司奉仕徹夜

昭和33年(1958) 市川教生官司

1月1日水曜日 元旦祭午前10時執行、宮吉町長、菅野県議、高山町議会議長、岩田、鈴木、中村、石井、杉山、勝、川上、織田各氏子総代等その他町議會議員等30名参列終了後、公民館の新年互礼会に参加

1月2日木曜日 浜本町水神祭官司奉仕

1月3日金曜日 午前11時より八幡、市原地区合同総代会、参会者(中略)の十氏、歌舞が飛び出し和氣藹々におわる

1月10日金曜日 初金比羅祭午前10時執行、講員は50名であつた、会費120円奉納、神酒もあつて中なか盛大だつた

1月14日火曜日 鎮火災午後5時執行

1月15日水曜日 成人式神前宣誓式を午前10時執行、該当

者250名中80余名参加

3月30日日曜日 早朝市川敬二氏来社、市川石三翁の計を告げらる。巨星94才にして墜つ

4月3日木曜日 市川石三翁神葬祭、準町葬により公民館にて執行、午後1時20分開式、自民党幹事長川島正次郎氏が葬儀執行委員長、会する者は柴田県知事をはじめ500名

4月5日土曜日 始関伊平講演会設立総会が公民館で催された。佐藤栄作自民党総務会長を始めお歴々の演説

4月8日火曜日 埋立て工事起工式の件に付、役場で打ち合わせ

4月10日木曜日 八幡浦埋立て起工式午前11時執行、千葉県が三井不動産株式会社ならびに第一港湾株式会社に寄託して実施するもの、坪数98万坪、漁業喪失に対する海苔業者に対しては200万円、あさり業者に対しては40万円の補償金が公布され、いよいよ画期的転換を町自体として行うこととなる

4月11日金曜日 漁業補償金6億2000万円が支払われた

4月12日土曜日 前日と同じ。町中の景気はいかに。建築ブームか

5月23日金曜日 安藤石材店より大谷石9本半入る。公民館前歩道の左右に植樹の囲いとして6本

9月8日月曜日 文化財研究会発足、公民館にて創立発会式、幹事に指名さる

10月12日日曜日 菅野県議、自民党県支部幹事長就任祝賀式、午前10時公民館において開催、参列

11月15日土曜日 午前十一時半(公民館で)合同七五三祝い、154名。前年に比して振袖姿の子供の増加したこと、豊作と補償金ブームの影響か

11月27日木曜日 皇太子妃発表され、民間人の日清製粉社

御成婚式、賢所御前において行われる、午前10時神社にては奉告祭執行

4月20日月曜日 株式会社千葉工業起工奉告祭を公民館にて執行

4月21日火曜日 23日が県議選の投票日、今日が町長選の告示、県議は菅野氏が立候補中、当選は確実らしい、町長には宮吉町長が再立候補したが前助役須賀氏が対抗馬として立候補した

4月22日水曜日 町長候補に鈴木日定氏が立つ、これで三つ巴の戦いとなった、町将来のためマイナスとなること必定

4月23日水曜日 県議投票日、市原郡においては菅野儀作、内藤良一、相川久雄の3氏が当選、ともに自民党ではあるが始関派對川島派の戦いであったそう

4月30日木曜日 市原町長選挙、宮吉長門、鈴木日定両氏立候補、開票の結果宮吉現町長当選

5月2日土曜日 三山行屋を境内の一部に建立させてくれとの申し込が先にあり、総代会において承認したが場所は石尊神社裏にし、今日地鎮祭と上棟祭とを行った

5月13日水曜日 公民館において参議院候補者立合い演説会

5月26日火曜日 漁業組合より呼出しあり漁組解散にあたり100万円程度の記念品を奉納したとなり、神楽殿などいかがと申しておく、総代に連絡せられたしとなり

6月2日火曜日 参議院選挙投票日

6月4日木曜日 参院選挙地区小沢久太郎氏当選、全国区斉藤時郎氏は落選

6月12日金曜日 本日公民館において漁業組合解散に際する総会が開催され、かねての懸案だった八幡宮に対する記念品献納の件が提案された、相当本総会は荒れ模様になるではなからうかいわれ、議長に鈴木万蔵氏が選出された、前日議長候補

長2女正田美智子嬢と決定、本日宮中会議議決を経、皇太子と軽井沢にテニス練習(中略)おこころ付けに成られたロマンスを秘めて1年3カ月を経てついに結実をみたもの、皇室に新しい血が入ることが歓迎されている

12月31日水曜日 ここに思い出深き昭和32年度を送る(中略)大祓式午後5時中西熊吉氏参列、引き続き除夜祭

*八幡町と八幡公民館の主なきこと(飯香岡八幡宮社務日誌)昭和34年(1959)市川教生官司)

1月1日木曜日 午前0時歳旦の神鼓奉仕、元旦祭午前10時半執行、宮吉町長、菅野県議、宮吉氏子総代会長、高山町議会議長、鈴木貞一前町長、川上郷友会長、鶴岡食料検査所長等30数多(あまた)参列、本年は特に「人心の和するところ神明は照覧し給う」の趣旨を祝詞文中に謳って奏上した

1月15日木曜日 成人式宣誓の儀正午執行、簡粥行事午前8時執行

1月26日月曜日 文化財協会役員会開催、公民館に向く

2月3日火曜日 節分祭午後6時集合、6時半開式、7時終了、本年は年男46名、氏子総代奉納の甘酒4斗の接待があり盛大裡に終了

3月2日月曜日 旭硝子会社開所式私祭助勤のため五井へ出張

3月15日日曜日 絶好の天候の下、春季大祭を執行、(中略)参列員大祭の委員長宮吉町長、竹内副委員長、高山町議長等約40名、終つて忠魂祭執行、年番町浜本町、演芸は青年団任せで余り感心しなかった

4月8日水曜日 県議選挙布告、菅野儀作氏参拜、陣中見舞いに行く

4月10日祭執行金曜日 皇太子明仁親王殿下、正田美智子嬢

辞退を奨める件もあり、本件に関しては実現が危ぶまれていたところ、鈴木敬介組合長が提案理由として、八幡五所漁業組合は過去において八幡宮社務所を組合事務所として発足し、いわば発祥の地である八幡宮に意義ある記念品を奉納したし、との説明に対し何ら異議なく可決を見たるは同氏の人格識見の卓越せる結果にして衷心より敬服かつ感謝の意を表する次第である

6月23日火曜日 午前10時町合同戦没者慰霊祭に参列

6月30日火曜日 大祓式午後5時宮司奉仕、午後10時三山敬愛講合祭殿遷宮祭宮司奉仕、これで満徳寺内より神社境内地に遷座完了

7月2日木曜日 バドミントンコートを社務所前に設定、学童に開放する。1月より始まった社会を明るくする運動の一助としての行事である

7月5日日曜日 午後8時浅間神社御遷宮奉仕、浅間神社関係役員供奉、白鳥作次郎、白鳥藤太郎代須藤豊両氏神聖奉戴役奉仕、今春暴風に破壊した神祠も石造神祠として遠永に神鎮まりますことになった

7月6日月曜日 浅間神社例祭午前10時執行、天候快晴炎暑となる仮設舞台を作り奉納演劇有り、祭儀にあたり富士山信仰に関する講和を行なった

7月10日金曜日 午後1時公民館で文化財研究会開催出席

7月12日日曜日 昨日から今日にかけて千葉港祭が千葉市を中心として市原町、五井町にかけて行われた。第1日はミス千葉港選出、昨日は花火大会だったものが雨天で今日に延期、そして今日はミス千葉の関係市町内巡回、市原町にも社務所前に町で舞台を設け、千葉芸妓連の手踊り、海上保安隊音楽隊の吹奏、夜は映画会が開催された、精神的な背景のないただ娯楽祭ではあるが人出は相当なものであった、今の時代はただ楽しみを追えばそれが祭りだということになるらしい

8月18日火曜日 今晩より5夜境内で商工会主催の招待芝居が行われる

8月30日火曜日 千葉県神社庁総会、姉崎町公民館に開く、来会者112名

9月3日木曜日 八朔会議午後2時開催、委員長代理小倉助役、竹内町内会連合会会長、長島警察署長外署員4名、氏子総代(中略)高山浜本町町会長、午前10時出御、午後9時宮入り完了、これは警察署の方針、警察署の説明会は12日に開く

9月6日火曜日 郡民体育大会も雨のため台なし、人集まりに雨の困るのは神社にとつても同様である

9月17日木曜日 秋季大祭午前9時執行、献幣使八劍神社片顧問、祭員、宮司(中略)、10時神輿出御、1時一旦鳥居前還御、それより直に各町内渡御、二の宮が予定の時刻を超過し、還御せざりしため警官の實力行動となり検挙されるといふ結果に終り、いよいよの渡御となったが18日午前11時半

全部宮入りするも神輿の破損甚大
9月18日金曜日 午後副委員長及び総代会議、五所区負傷者見舞うことに決す、竹内真次氏外岩田、鈴木、中村、石井、勝、宮司午後7時見舞いに参上す

9月19日土曜日 町長、竹内真次氏、宮司にて負傷警察官〇〇警部補を自宅に訪い見舞う

10月2日金曜日 町議選挙告示
10月5日月曜日 町議員選挙届出〆切り、八幡地区16名立候補

10月9日金曜日 町議員選挙、川上一之氏380余票を獲得、最高点にて当選

10月22日木曜日 旭硝子稲荷神社鎮座祭奉仕

10月31日土曜日 神立祭、鈴木、石井、勝各総代参列、曇天なれど時間9時半ころまで参詣人あり、去年ほどの賑わい、露店も4軒ほど出る

1月22日金曜日 海面一の鳥居が第二埋立工区の内にあるため撤去に話し話があった、宮司単独にて回答するわけにも行かぬので総代会に一応報告し、意向を聞き挨拶すべきことを約す、ただし考慮すべきことは鳥居建立発起人、植草辰五郎氏に一応工事関係側か旧海面組合側から話をしてもらわねばならぬかと心配する

1月23日土曜日 午後1時総代会、岩田、鈴木、中村、石井、宮吉、勝、川上、織田各氏来る(中略)なお海面鳥居撤去の件は根本より伐つて神社の境内に搬入するよう工事関係者に申し入れるよう土屋氏に回答することに決す

1月25日月曜日 浜本町囃子保存会白鳥孝治、城谷保蔵、根本常吉、伊藤繁七、永島卯三郎の諸氏録音テープに囃子を吹き込み保存することにし、午後実行、終つて直会

1月30日土曜日 郷土民謡八幡の船唄をテープに録音、唄手白鳥作次郎、川島朝負、永島卯三郎、白鳥軍治、根本常吉の諸氏

2月4日木曜日 節分祭6時半執行、年男48名欠席11名、甘酒接待は氏子総代にて行う、9時終了

2月5日金曜日 神輿修理のため本殿より搬出(中略)、土屋勲氏来社海面埋立て付、第一鳥居撤去することを談合、鈴木総代より県より手配されて撤去し出来るものなら第二鳥居前方松並木の末端に移転して貰いたい、出来ぬものならやむを得ない旨を回答して貰う、これは昨夜節分祭終了後、岩田、鈴木、中村、石井、織田各総代人との協議の結果である

2月7日日曜日 公民館運営審議会のため社務所使用

2月22日月曜日 今回八幡浦干拓第二工区埋め立てにより海面第一鳥居撤去のやむなきに至り本日午前10時より奉告祭を執行

2月29日月曜日 海面第一鳥居撤去境内に搬入

3月15日火曜日 午前10時春季例大祭執行、大祭委員長官

1月13日金曜日 今朝浜本町株式会社〇〇のトラックが、ブロック製品を満載し石尊神社前より浜本町向け参道石橋を渡る際、重量のため橋床用の敷石2枚がまん中より割れて溝中へ落下せり、人車の運行には支障は来さざるも修理を督促せねばなるまい

1月15日日曜日 合同七五三祝午前11時20分執行175名であった、午後個人参拝あり、振袖姿も大変あってこれは仕様のないことである。しかし着せてやりたい親心も考えてやらねばならない

12月12日土曜日 浜本町第2分団消防ポンプ清祓式境内にて執行
12月31日木曜日 大祓式、除夜祭宮司奉仕

昭和35年(1960)市川教生(宮司)

1月1日金曜日 元旦祭午前10時執行、氏子総代(中略)宮吉町長、菅野県議、川上一之町議会議長、長島警察署長その他来賓30名参列、神酒を頒ち、祭儀終了後町長の音頭による手打ち式をもつて解散す

1月3日日曜日 午前11時より新年総代会開催、とくに菅野県議、宮吉町長の出席を懇請し海面埋立て5000坪処分問題につき、これを将来現金化し一部を神社維持資金として一部を漁民への見舞金に充当するよう取り計らうべき旨の説明を聞く

1月10日 金刀比羅祭午前10時執行、植草辰五郎氏創立発起人として進行、本年議員51名、菅野県議、宮吉町長その他より神酒の奉納を得る、直会は盛況理に正午解散せり

1月15日金曜日 成人式神社参拝午後1時執行、宮吉町長、森教育長、成人男女約100名参列
1月19日火曜日 辰巳団地道路起工式奉仕

吉町長、同顧問菅野県議、総代、祭典委員、来賓50名参列、終了後忠霊塔前にて忠霊祭奉仕、直会あり12時解散

3月17日木曜日 辰巳団地ガス水道工事起工式打合せ会、公民館にて開催、宮司出席
3月23日水曜日 辰巳団地現場視察、午後川上町議会議長来る、保育園長就任の件について

3月25日金曜日 辰巳団地起工式午前11時開始

3月26日土曜日 境内植樹に関し役場高井氏、農林事務所月岡氏、白鳥辰雄氏、安藤義次氏来る、実地検証の上植樹の手配を決める。午後4時公民館において宮司八幡保育園長就任の交渉を受く

3月31日木曜日 保育園長辞令交付さる

4月1日金曜日 菅野県議来社、海面鳥居補償金25万円の由を話さる、八幡保育園長となる

4月8日金曜日 保育園入園式に出席、商工祭公民館境内において開催

4月11日月曜日 宮吉町長配慮による楓62本、つつじ30本、吉野桜苗100本植え終る

4月12日火曜日 ヒマラヤシダ40本着荷、大久保農園納
4月14日木曜日 宮司、社会教育委員に任命され、本日公民館において初会合

4月20日水曜日 公民館使丁竹内かね氏急逝

4月23日土曜日 八幡地区内小中学校保育園職員退就につき歓迎会を公民館において催行、出席する

5月13日金曜日 県開発部森山忠治氏海面鳥居撤去補償金25万円持参する、宮吉、岩田、織田各総代人立会いの上受領する

5月15日日曜日 午前11時鳥居補償金処置問題に関し、菅野県議の来社を得、総代各位と協議して、20万円を営繕費に充当、5万円を記念品として当時の関係各位に渡すことに決定

する

6月26日日曜日午前10時半より海面第一鳥居撤去奉告祭執行、終つて直会及び報告会、町長代理小倉助役、氏子総代、海苔業者世話人14人來社參列

海面第一鳥居は足利義満が最初に奉納され、次に足利義明、千葉富胤、義胤等が再建したと伝えられ、明治維新當時より中絶しておつたものを昭和16年5月植草辰五郎氏が時の八幡五所海苔業者に語つて世話人18人立て他308名の業者に呼びかけ1名2円づつ拠出して建立、奉納したものである、爾來歳月をへること19年新たに千葉工業地帯造成による埋立て工事のため本年4月撤回するのやむなきに至つたのである。よつて県議菅野儀作氏には神社の立場を考慮して県当局に交渉の結果25万円の補償金を交付され、これを5万円を海苔業者および世話人への記念品代とし、20万円は神社営繕費に充当することにしたものである。ここに関係各位の御芳志に感謝し記録とするものである

7月5日火曜日今日昭和電工株式会社地鎮祭執行、これでは八幡浦埋め立て地にカーボンブラック製造の工場がいよいよ建設されるのである

7月7日木曜日青少年健全育成協議会に出席

7月8日金曜日保育園一日視察のため東京都へ後援会員50余名出向

7月9日土曜日文化財研究会総会出席のため市原小学校へ出向

7月10日日曜日三山人旅立ち奉告祭執行

7月18日月曜日自衛隊落下傘降下部隊、第一千拓地に午後2時ころ30名降下

7月21日木曜日菅野儀作氏県議会議長、鈴木貞一氏県商工会長就任祝賀会公民館にて開催、出席

7月23日土曜日ボーイスカウト境内でキャンプファイア

9月20日火曜日午後3時より町長、助役、消防団長、体育協会長、婦人会長、青年団幹部と公民館において神輿渡御問題に關し談合する

9月25日日曜日今朝午前4時50分本宮前氏子総代会長、八幡五所漁業組合長鈴木敬介氏病氣療養その効なくついに永眠さる、氏は父子2代にわたり飯香岡八幡宮氏子総代に歴任され、また八幡町長、合併後の市原町長に選ばれ地方自治行政に尽くされ、その間飯香岡八幡宮氏子総代および責任役員として若年の市川宮司を補佐し、神社経営上の対策に指導的役割をなす

9月28日水曜日鈴木敬介氏準町葬を公民館において執行、宮吉総代氏子を代表して弔詞を奉誦

10月2日日曜日神樂殿竣工引き継ぎ式午前10時執行、この日漁業協同組合解散に伴い記念として献納した神樂殿は総工費1百万円をもってここに竣工、引き継ぎ式を挙行した、参列者漁民福祉厚生対策協議会長菅野儀作氏、宮吉町長、小倉助役、岩田、石井、川崎、宮吉、勝、織田各氏子総代、大塚増太郎、中村嘉七、山越実、保坂金太郎、宮原政雄、小宮山松次郎、土屋敷各漁組役員、設計者古関宏氏、八幡職工組合長永野中、副組合長白鳥繁治郎、千葉政勝、大工今野峯雄、とび菊地俣、ブリキ職永田直次郎各氏

10月5日水曜日午前10時秋季大祭執行、奉仕員宮司(中略)参列員委員長宮吉町長、菅野県議會議員、氏子総代、祭典掛等60名余、商工会演芸奉納(仮設舞台において)年番演芸(神樂殿において)午後10時まで、神輿の渡御はなけれども快晴に恵まれ5万余の人出だった、事故もなく無事終了したことは大慶の至りなり、一部青年間に渡御見合わせの不満は見受けられたが問題はなかった、めでたしめでたし
10月12日水曜日辰巳団地入居対策協議会に出席(公民館)

1をなす

8月7日日曜日千葉港祭恒例により行われた、人出は昨年ほどでなし、ミス千葉、軍楽隊、芸者手踊りなど境内仮設舞台にて行われる

8月8日月曜日神樂殿地鎮祭午後2時執行、これは漁業組合奉納によるもの、組合長代理土屋敷氏外5名、宮吉、岩田、織田各責任役員、永野中職工組合長、白鳥繁治千葉副組合長、菊地俣頭参列

8月16日火曜日神樂殿基礎工事完工、午前9時拝殿屋根修理着工奉告祭執行

8月17日水曜日NHK千葉放送局より文化財の保護と管理上の不満というテーマで録音を取りにきた、社務所に会する者、森教育長、鶴田恵吉、菊地俊之と市川の4名、局からは辻尚氏が参加した

8月20日土曜日台風15号房総沖をかすめる、本日神樂殿上棟祭執行の予定なるも立柱式を略式にて行い、22日に延期する

8月22日月曜日神樂殿上棟祭執行午後3時、これは八幡五所漁業協同組合が解散するにあたり組合発祥の地である八幡宮に記念品として造営工事費1百万円をもって奉納するものである、施行者は八幡職工組合で設計者は千葉市古関宏氏で建築様式は東京都鉄砲洲稻荷神社の神樂殿を大規模したものである、本日は地元出身千葉県議會議長菅野儀作氏、市原町助役小倉由太郎氏外組合関係役員、氏子総代、職工組合員等30名参列す

8月26日金曜日市原橋渡初式午後1時半執行

8月31日水曜日夏休み中、浜本町児童会35名国旗掲揚、境内清掃奉仕に対し、記念品授与を行なう

9月2日金曜日拝殿屋根銅板張り替え工事永田ブリキ屋開始

11月15日火曜日11時20分(公民館での)七五三祝合同の参拝あり170名

11月18日金曜日神立祭午後6時執行、宮司奉仕(中略)を代表し6万4000票をとって当選す

11月21日月曜日始開代議士、菅野県議會議長参拝

11月20日月曜日衆議院総選挙執行さる、始開伊平氏郷土を代表し、6万4000票をとって当選す

11月21日月曜日始開代議士、菅野県議會議長参拝

11月22日火曜日下乗札位置変更

12月1日木曜日参議院選挙、民自党の木島義雄氏当選

12月2日金曜日古河電工千葉工場の起工式奉仕

12月20日火曜日文化財保護委員会渡辺早大工博、伊藤建造物係長、県教育長宮崎主事、社殿調査に來社、氏子総代7名、町教育委員会加藤主事出席、夕食は白鳥旅館にて饗す

12月26日月曜日拝殿前面御屋根修理完成

12月31日土曜日大祓い午後5時、中西熊吉氏参列、除夜祭宮司奉仕

昭和36年(1961)市川教生宮司

1月1日日曜日元旦祭午前10時半、参列員菅野県議會議長、川上町議會議長、鈴木貞一商工会長、川名中学校長、今井小学校長、氏子総代等20名、早朝の社殿準備は菊地蔭が来てくれた大助かりだった、年々のことながら徹夜が身にこたえるようになった、神前の行事を終えて公民館の賀詞交換会に参加、夜は早寝、寒は酷しかったが快晴であったことは何より

1月2日月曜日快晴の第2日、社頭例年通りの社参人あり、終日平穏、北陸方面、28日より大雪、列車立ち往生して5万人が列車内に閉じ込めらる

1月10日火曜日 初金刀羅祭午前10時執行、雨天のため神社遷葬の形をとる、講員60名中40名参列、大変気分よく行われる

1月14日土曜日 門松今朝菊地蔵出社の上撤回する、今日は一日無風快晴、お飾り焚きも無事終了して何よりだった

1月15日土曜日 筒粥神事宮司奉仕、成人式に261名神社参拝の後記念植樹をする、神社より「青年と思う」パンフレット261部を袋入れにして贈呈する、午後町社会教育委員会に出席する

1月16日月曜日 午後4時半公民館にて町政懇談会に出席
1月22日土曜日 八幡埋立地に建設された進出工場の第1号昭和電工会社の火入れ式本日執行、ここに意義ある工業都市の炎があがったのである

1月27日金曜日 青少年健全育成研究会に出席、八幡公民館
1月31日月曜日 このところ北西の風が吹くと埋立て地の砂塵が舞い上がり町の上空を覆いつくし家内外を問わず降りそそぐので掃除に一苦労となる

2月2日水曜日 県当局宛て拝殿、幣殿調査依頼の陳情書提出
2月3日金曜日 初卯祭、節分祭午後6時、年男申込み56名なりしも卯日祭のため出足悪く30名程度であった、社頭で総代人が甘酒の接待をしてくれた

2月13日月曜日 永田ブリキ屋道祖神社屋根張り替え工事着手完了、なお井戸水が激減しポンプの管が水中にとどかなくなつたため継ぎ足して貰って揚水可能になる

2月14日火曜日 千葉市が市原郡7か町村合併の上、100万都市を造成しようとして申し入れてあるが如何になりゆくことか

2月26日日曜日 保育園遊戯会公民館にて公開、出席
3月15日水曜日 まれに見る快晴に恵まれ春季大祭午前10時執行、菅野県議会議長、川上町議会議長その他氏子総代祭

との甲板にて執行、町より緑の週間のヒマラヤシーダー8本寄贈を受く

6月11日日曜日 観音町田んぼの中五十谷、神力、十二神の水田が千葉県開発公社の買い上げとなり、工場敷地に転用されることになったためこの水田中の畔にあつた祠を神社境内に遷座すべく午後2時遷座祭執行、世話人総代は石井源二、川上朝負、白鳥繁次郎等10名、関係地主耕作者は51名であつた

6月16日金曜日 古川電工電線製造所の第1期工事完成式を奉仕する
6月17日土曜日 矢来の降雨神域の新緑を濡らし、老鶯しきりに緑陰に鳴く、春は逝き初夏のおとずれをそいろに感じる昨今である、夜の帳下りれば水鶏の声社前の蓮田を叩く、夜蛙の声しきりなり

6月28日水曜日 終日終夜豪雨とうとう出水、手水舎の下棟瓦崩壊
6月29日木曜日 出水のため交通機関半分マヒ状態、中部地方、関東地方を荒し廻る、八幡地区でも市原市菊間出途及び新田町が出水で大騒ぎ

7月12日水曜日 三山人祈願祭執行
7月13日木曜日 浅間神社例大祭午前10時執行、この祭は浅間講社主催の下に執行されるもの、祭典費は浜本、観音町より3000円、南、新田町、本町1、2丁目より2000円宛計1万円を基金とし後は一般篤志家の奉納金によるもの、神社としては打合せ会と祭典儀式に關係するだけだが講社員のみの祭に墜ちやすい点の見受けられるのも万止むを得ぬことである

7月21日金曜日 バドミントンコートを設置する
7月24日月曜日 早朝宮吉町長訪問、保育園長辞退を再度申し入れる、後任者に吉田太郎氏を推す、町長曰く園長より交渉して就任懇請せられたしとなり

典掛等40数名、本年は町商工会が植木まつりをしてくれたので大へんな人出だった、余興は日没までとして打ち切りにした
3月20日月曜日 富士電機KKが本日立柱式を上げるまでになった

3月30日木曜日 この朝旧漁組土屋敷氏来社、織田総代人も同席し、例の神社奉納埋立て地5000坪売却代金1億円の内の3千万円を神社に3か年に渡り分割奉納に申し入れあり

3月31日金曜日 午前10時半菅野県議会議長、土屋旧漁組参事、岩田、鈴木、中村、石井、川崎、勝、川上、織田各総代人参集、漁組旧組合員奉納祈禱料金3千(万)円の内金1千万円を内金として奉納する旨正式に申し入れあり、今後神社の運営、維持の経費に資すべき旨とくに氏子総代に申し入れがあつた。

これは同氏(県議長)が敬神の念をもつて今回の海面埋立てを機に神社財政永遠の基礎を固めようとの念願からで、かつ天正の昔徳川家康が150石を寄進した後、明治の新政府に一旦土地せられたが明治9年8月無償譲与の恩典に浴し、終戦後農地解放まで持続したがこれが解放されてから神社の維持は容易ならぬものがあつた、しかるに今回菅野県議会議長の配慮によるこの事は天正および明治の変革に際する神社路維持の確立と共に神社史に銘記されるべきことである

4月3日月曜日 土屋敷氏来社金3千万円寄進の内金1千万円を千葉信用金庫、八幡農協、千葉銀行の定期預金として持参される

4月18日火曜日 午前中公民館にて境内駐車場設置の問題の説明会に出席、織田総代人も同席

5月3日水曜日 憲法記念日、幼稚園の上棟祭奉仕
5月4日木曜日 官吉町長訪問、保育園長辞表提出、これはここ1か月間の健康状態によるものなり

5月7日月曜日 今日千葉港灯台設置式助勤のため時田氏の宅へ出張、現場は沖合7キロのところ、海上保安庁艦艇ほく

7月26日水曜日 社務所前星の井電力ポンプおよび手押しポンプ取り付け、従来の動力ポンプは不調につき新規購入、鈴木、中村、織田総代人奉仕、これで境内桶水を得ることができ何よりのこと
8月7日月曜日 ソ連人工衛生船夕刻無事予定地点に降下、5時間余り地球を廻る、またまた米に先んじる世紀の偉業
8月11日金曜日 今日富士電機製造株式会社千葉工場の上棟祭を午前9時執行、これは鉄筋組み合わせのため木造の場合と異なり鉄打式になるので初めての私祭様式だった、金銀の銚を予め中央柱にはめこみこれを会社および工事代表者が金銀の銚でそれぞれ打つと棟の方で打鉄機でダダダーと打ち込むことである、正直のところよい経験をつんだ

8月16日水曜日 ボーイスカウトが境内で7名キャンプ訓練、午後神社講和を希望するので社殿内で行う、夜商工会、青年団主催の盆踊り小学校で3晩続行するという

8月17日木曜日 午後青少年指導、子供ゲーム講習会を受講(公民館において)

8月18日金曜日 ソ連ミコヤン副首相14日来日、ソ連見本市に出席のため今日は大阪滞在、ややこしい世相となる

8月20日日曜日 昨夜10時過ぎより今晩に至るあいだ石尊神社の石鳥居が自動車の接触によつてか倒壊、早速一の宮の町代連絡に来社、警察に届け出る

8月22日火曜日 石尊神社鳥居後始末のため浜本町より惣代以下多数出て勤勞奉仕してくれる、やはり一の宮の町内だけあつてありがたいこと

9月2日土曜日 仕事師5人入る、手水舎移転工事開始、織田、石井両総代立ち会う

9月4日月曜日 炎暑続き境内樹木枯れ死続出
9月6日水曜日 手水舎移転完了、後は屋根瓦を乗せ水道管敷設、周囲のセメント固めのみとなった

平河村人誌より 日記解説

八幡中学校及び八幡公民館設立に関する記述

昭和二十二年

八月二十一日 木曜日

神社境内へ小学校々舎新築の許可に関し、氏子総代及び祭典世話人会を午前九時より開催。岩田助役より一応説明により、大体新築●●の事に同意の意向あり。各氏子の意見を集むることとせり。

九月十五日 月曜日

氏子総代等にて学校増築敷地を实地踏査の決定す。境内へ学校々舎を建設するが如きは、境内の風致を害し神職としては絶対反対なるも、如何とも仕方なし。数百年來の八幡宮境内の風致もメチャメチャになる訳なり。学校と神社と同居では神社の神聖を保つことは到底不可能なり。加ふるに御社頭が漸次腐爛する今日、神社将来の維持は覚束なき事なる。世相の就らしむる所ありとは云ひ、八幡町民の自慢する八幡宮も到底神聖を保つこと能はざるに到るべきなり。

十一月十二日 水曜日

境内の南方浅間神社の前通り全部数百年來の樹木を切り払ひ、今回学制変更依る、六、三制学校の校舎を建設す。神社側に於て如何に反対すと雖も、町会議員全部の主張にして氏子全部の意向なりとして応ぜず。遂に手込にして伐採せり。此の爲神社の森敵風致はメチャメチャとなる。誠に遺憾至極の事なれども、如何とも仕方なし。境内は学校生徒の運動場、遊び場所となり、数百年來境内風致の尊嚴を維持し、房総一を誇りたりし八幡宮も、今や市井の一村社と区別なきまでに至りたり。其の茲に到りたるは種々なる原因の重なり合ひ、一種微妙なる経緯に拠る所なるも、八幡町将来の爲誠に遺憾なる事なり。第一に今強て六、三制の学舎を新設するの急務なる事は無し。今迄の校舎に加へて他の明(空)き家を物色し、二部制なり三部制なりにして、苦しきを暫時耐え、一、二年を待つて此のインフレの経過を見るべきなり。若し強て校舎を建つるとすれば、御墓堂の附近又は避病舎の附近の地を物色すべきである。右の方面の地なれば、他日省線着々京成電車延長の北合、大八幡発展の地に綽々たるものあらむ。境内地にては余裕の余地なし。強いて境内を選すの要なし。第三には菊間村市原村との合併も考慮すべきなり。今直ちに合併の出来なくも、一、二年後に合併の可能性はあるものなり。此の事は神社側の見地のみならず八幡全般の見地よりして、八幡宮境内は避るべき事なり。余は八幡町当局者が如何にも短見且早計に失したるを慨嘆せざるを得ない。八幡町将来の爲惜しみて余りあると思ふ。其の此所にいたりたるはツマラない個人的感情と利己心との結果に外ならない。八幡町全般の見地と云ふ事は少しも見当たらない。八幡町全般の見地より虚心平氣に考へれば何人も憤慨せざるを得ないだらう。当局者の早計と云ふ非難は免れない事だらうと思考せらる。

十一月二十六日 水曜日

境内八幡中学校建設敷地地鎮祭執行。

十二月二十五日 木曜日

八幡新制中学校上棟式、午前十一時執行。

9月10日月曜日 午後2時八朔会議、(中略) 会議は鈴木総代、(宮吉、今井、川上3氏欠) 議長となり開会、神輿の渡御は見合わせることに決定した、残念ながら今の交通事情では止むをえない
9月14日木曜日 午後2時より小倉助役、小湊バスKK係員来社、ターミナル設置について懇談、当方の意向を伝えまた先方の希望を聞きとかく設置を認めることにする。鈴木、中村、石井、川崎、織田各総代来社
9月19日火曜日 神輿飾り付け、中西、山下、大塚、木島、木村各氏奉仕、今年度は神輿の渡御がないので準備その他については簡単なものである
9月23日土曜日 前夜祭午後7時奉仕、(中略) 朝の内霧雨程度降るも午後より上り快晴となる、宵宮も上々、年番四の宮の囃子神楽殿にて意気上がる、秋月中天に明るなり
9月24日火曜日 早朝午前4時より年番町神楽殿にて囃子、昨夜は11時まで囃子をする、南町は熱心だ、快晴に恵まれ10時過ぎ開式、(中略) 献幣使松井千葉神社官司、官吉長門町長を大祭委員長、菅野儀作県議長を顧問にして参列員50名、神輿渡御は見合わせたが参詣人は多数、桃山流舞踊を奉納する、夜9時半過ぎまで演芸を仮設舞台とする商工会の奉納で賑やかであった
9月25日月曜日 翌日祭午前7時官司奉仕
9月26日火曜日 神輿格納、中西、山下、大塚、木島、木村各氏手伝い
10月3日火曜日 国際収支の帳尻が赤字続きで株価が5800円台から4千円台に大暴落を演じ経済界も景気下降の兆しを呈した
11月15日水曜日 (公民館の) 合同七五三祝い170名、祝い袋を贈る、個人参詣も少し見える
11月17日金曜日 浜本町老人クラブ幹部の8名川島操氏

の幹旋により杉苗600本奉納、これは川島氏所有林にあったもの
11月18日土曜日 老人クラブの人13人杉苗を境内に植え付け完了、謝礼千円及び清酒2升を贈り労を口う
11月19日火曜日 日曜日につき七五三詣が着飾ってみえる
11月23日木曜日 観音町鈴木一重氏旧神明神社鎮座地、下川端に社址の碑を建立、清祓式を行う
12月3日火曜日 大日本インキ株式会社社地鎮祭
12月18日月曜日 町長室に向き保育園関係の退職金受領、8月31日付けで退職と決定、これで一段落してホッとした、まずまず神明奉仕専務にまい進すべし
12月19日火曜日 社教委員会に出席
12月21日木曜日 今日福祉事務所取り壊しに関し役場より石川住民課長来談、旧遊園地を作業小屋として使用することに約す
12月25日月曜日 町に門松も立ち暮れ気分漂う
12月29日金曜日 門松立つ
12月31日火曜日 大祓い式、除夜祭官司奉仕、大過なく本年も送ることの得たのを衷心より感謝、お札場に去年、今年なき抹宜の声

昭和二十三年

二月十一日 水曜日

八幡中学校工事、中間●●祭執行

四月一日 木曜日

午前九時、公民館地鎮祭執行、内田宮司奉仕。

四月二十三日 金曜日

公民館上棟式執行。

四月二十四日 土曜日

境内譲与願に關し氏子総代の調印を取る。

四月二十六日 月曜日

神社本庁統理の調印を求むる為、頌徳神社（現千葉縣護國神社。この当時神社庁が頌徳神社内にあった）社務所に行く。馬鹿げたる事なり。此の●●ならばモットモット早くしなければ、無駄だ。

四月二十七日 火曜日

千葉税務署へ行き境内譲与願を提出す。此書願果たして甘く行くかどうか分からない。

五月二十四日 月曜日

境内譲与願、千葉税務署長郵便。

六月二十三日 水曜日

八幡公民館は二十六日落成式挙行で工事を急いで居るが、二十六日には落成せざる模様なり。然し式だけ催して残工事はゆるゆるする事なるべし。此工事果して満足な結果を生むや否。

六月二十六日 土曜日

八幡新制中学校及公民館の落成式を執行。川口知事・多田代議士其他多数参列せり。此建物の新設以来風致は殺がれ火の用心は悪い。神社の境内だか学校の庭園だか分からない様になつた、神社としては百年の祈をあやまつた訳だ。

六月二十七日 日曜日

公民館にて八幡敬老会開催。

七月三十一日 水曜日

公民館にて所得税申告方法の指示あり。内田宮司出席。

八月一日 日曜日

此日より三日間公民館に於て、夏季大学講習会開催。参議院議員小野哲氏・参議院議員高良富子氏・早大講師滝口宏氏、桂氏等来館。

八月二日 月曜日

此日も夏季大学講習会。講師は社会心理博士赤神氏（赤神良讓）及び毎日新聞経済部岩井良太郎氏の両氏。終つて座談会。

八月三日 火曜日

夏季大学講習会終了。

九月三十日 木曜日

公民館落成こけら落としとして、吉右衛門・鴈治郎一座の興行を為す。大入満員の盛況であつた。

十二月六日 月曜日

公民館に小唄勝太郎を開く。

十二月十日 金曜日

夜公民館にて明春金刀比羅宮の打合せ開く。

十二月十八日 土曜日

公民館で藤山一郎一座演芸会あり。

昭和二十四年

二月九日 水曜日

公民館にて大津万才・香（浅草香）一行の芸能会あり。

二月二十日 日曜日

公民館にて市原郡咽喉自慢演芸会あり。

三月二十四日 木曜日

公民館に於ける八幡小学校修了式に内田宮司参列。

七月二十九日 金曜日

公民館・中学校敷地問題売払申請提出の為、千葉椿森財務省千葉支部へ内田宮司出張。

十一月二十七日 日曜日

綜合グラント完成祝、内田宮司執行。八幡公民館表彰祝賀式及び綜合グラント完成祝賀式、公民館にて挙行。川口知事其他敬（警？）官・各地方務所長・市原郡各町長等参列。式終つて白鳥旅館にて祝賀式。町民一同には福引執行。其他演芸会等夜半迄執行。

昭和二十五年

三月六日 月曜日

境内譲与願実測図見取図等漸く出来上りたるを以て、此日千葉財務部へ持つて行き、漸く納むることとしたが、果して甘く行くかどうか疑はしい。

三月二十九日 水曜日

境内譲与に關し、千葉財務部に行き千葉税務署に行き、県庁に行き、又財務部に行く。イヤハヤ連中の分らないのにはあきれの外なし。連中も此の世智辛き世の中だから已むを得ないだろう。（この後たびたび説明や嘆願の記事が続く）

四月一日 土曜日

公民館・中学校敷地売却申請、町長の各儀（会議？）にて調製（調整？）。大森女子に依頼して財務部千葉支部へ提出す。

七月十六日 日曜日

此日秩父宮妃殿下公民館へ御出になり、町内大騒ぎ。公民館にて菅野町長より状況を申し上げ八幡音頭を御覧に入れ、グラント海岸を一周して御帰りになる。七十歳以上を公民館へ案内を受けば御観を拝せり、町民挙げて大歓迎。

九月五日 火曜日

千葉県青年団体体育大会グラウンドにて開催。多数の出席者有り。宿泊へ民家迄割当つ。十月十九日 木曜日

グラント土地登記の件に関し、千葉市神社庁へ行く。

十月二十六日 木曜日

八幡登記所へ行く。

十月二十七日 金曜日

グラント敷地八幡町へ寄附登記済。

十二月十九日 火曜日

登記の事にて、神社本庁へ行く。要領を得ず。

昭和二十六年

二月一日 木曜日

神社の刀剣を公民館に於ける本県文化財保護委員会へ提出、登録証を受く。

三月二十日 火曜日

公民館にて八幡町全国町村会表彰の件選挙投票。優良表彰披露祝賀式挙行。内田宮司参列。

五月五日 土曜日

公民館にて生活改善の端午の節句、何だか寂しい様であった。

五月十七日 木曜日

お宮の境内に公民館が建ち中学校が建ち、今度又市原地方事務所が建ち児童遊園地が建つと云ふ。誠に惜しき事である。境内の位置・建物と云ひ申し分なきお宮だが、其の森厳さが年々減らされる。然し此氏子では如何とも仕方がない。赤手以て防ぐるは出来な

い。

五月十九日 土曜日

公民館に旧町長菅野儀作氏・新町長鈴木貞一氏・旧小学校校長立石七郎氏・新小学校校長今井氏の新旧町長小学校長の送歓迎会を開く。内田宮司出席。

六月十一日 月曜日

関東財務部財務局へ内田宮司境内譲与許可書受取の為出頭。

七月五日 木曜日 雨

境内に建つる市原地方事務所の起工式を行ふ。雨天の為に御拝殿にて式を行ひ、白鳥にて直会あり。

八月十日 金曜日

八幡浦干拓起工式を公民館にて執行。続いて海岸にて録入れの儀執行、内田宮司奉仕。

参拝者柴田知事・川口前知事・農林省関係議員・本県●地整記・土木関係吏員。

八月二十日 月曜日

市原郡遺族聯合会主催に係る戦死病没者慰霊祭を公民館にて開催。内田宮司奉仕。小田(白幡神社・小田吾勝守宮司)・天羽(菊間八幡神社天羽一栄宮司)両氏を補助に頼む。遺族の関するもの約千人、統て遺族大会を開催。遺族の宣言に付いて討議する処なり。終つて余興ありたる模様なり。

十月二十八日 日曜日

八幡公民館にて八幡村主催の戦死病没者慰霊祭を仏式にて執行。小学校舎敷地地鎮祭執行、内田宮司奉仕。

十一月十五日 木曜日

七五三の祝日なるもお祝いは公民館に奪われたるを以て社頭は寂し。生活改善と云ふ美名の下に、世の中には微妙なるもあるものだ。

十二月八日 土曜日

八幡小学校上棟式執行。

十二月二十日 木曜日

市原地方事務所落成式執行。

昭和二十七年

三月十六日

公民館にて小学校増築落成式、供米完遂。消防団表彰旗披露、堤防遂行等祝賀式に内田宮司参列。

十一月十五日 土曜日 曇

町合同七五三祝は、公民館で九十名余り参集して行ふ。

十二月二十一日 日曜日 晴

境内地無償譲与完了奉告祭執行、午前十時宮司奉仕。宮吉石井中西総代、吉賀財務部主任・小島登記所書記参列。

昭和二十八年

七月二十六日 日曜日

公民館料理実習生の御手並を会食し、館長と懇談する。

七月二十七日 月曜日

公民館青年学級で、夜郷土史の講話をする(市川教生宮司、以降継続)

十一月十五日 月曜日 晴

午前中七五三合同祝。公民館行。百八十五名とは昨年の約倍数。(以降継続)

十一月二十四日 火曜日 晴

夜公民館審議会に出席(以降継続)。門松問題(生活改善運動の門松廃止運動の事か?)で一言弁ずる。

昭和二十九

十一月二十一日 日曜日 雨

夜公民館に参院議員石川栄一氏及び又島戦犯教師・浅井聖教氏の講演。前者は中共より帰りて、校舎は戦犯者を見守りつつの二題。中共に於ても古文化の保存に力を致してをること、英霊顕彰の必須なることなど力説された。

昭和三十年

一月二十日 木曜日 晴 強風

公民館で菅野儀作後援会が結成された。

二月二十一日 月曜日 晴

早大考古学教室大川清外学生二名、市原光善寺遺跡調査の為、本日より三日間逗留。宿

昭和三十四年

五月十三日 水曜日 晴

公民館に於て参議院立候補者立会演説会。

六月十二日 金曜日 晴

本日公民館に於いて漁業組合解散に際する総会が開催され、予ねての懸案だった八幡宮に対する記念品献納の件が提案された、相当本総会は荒れ模様になるではなからうかと云はれ、議長に鈴木万蔵氏が選出され開会されたが、前日某人より議長候補辞退を進める件あり、本県に於いては実現が危ぶまれてゐた処、鈴木敬介組合長が提案理由として、八幡五所漁業協同組合は過去に於いて八幡宮社務所を組合事務所として発足し、謂はば発祥の地である八幡宮に意義有る記念品を奉納し度しとの説明に対し、異議無く可決を見たるは同氏の人格識見の卓越せる結果にして衷心より敬服、且つ感謝の意を表する次第である。

昭和三十五年

四月二十三日 土曜日 晴

八幡地区内小中学校保育園職員退就に付、歓送迎会を公民館に於て催行。

七月二十一日 木曜日 晴

菅野儀作氏県議会議長・鈴木貞一氏県商工会長就任祝賀会を公民館にて開催。

九月二十八日 水曜日 曇後雨

鈴木敬介氏準町葬を公民館に於て執行。

昭和三十七年

十月二十五日 木曜日 小雨後曇

公民館にて加納候補の個人演説会あり。思うに今回の知事選は誠に不可思議な事である。自民党が分裂し血肉相喰むかと思へば、社会党も分裂しその間に無所属の現知事が介在立候補するなど、政党政治の腐敗をまざまざと県民にさらけ出した現状である。之に対する県民の批判は二十八日の投票によって決するのみ。

昭和三十八年

六月四日 火曜日 曇時小雨

千葉財務出張所佐藤治樹氏来社、公民館中学校敷地の測量立会の件について。

七月二十七日 土曜日 晴

中学校敷地・公民館敷地と境内地境界標確定協議書式通を関東財務局・千葉財務部長葉吹秀雄氏より郵送のものを受領。

十一月五日 火曜日 曇

午後一時半より公民館で八幡神社下の区画整理組合に関する説明会あり。この話だと十米道路が出来、次に神社境内地内を横断する十八米道路も出来るらしい。

昭和四十年

舎は公民館を借りる。

三月三十一日 木曜日 雨

八幡町と菊間村を合併、市原町となる。公民館で祝賀会あるも降雨でまことにしめやかな一日であった。

十一月二十三日 水曜日 晴

南洞先生銅像移転工事完了奉告慰霊祭午前十時執行、宮司奉仕。終わって公民館にて遺族恩師を交えて懇談会。

昭和三十一年

十月二十五日 木曜日 雨後曇

午後七時より氏子慰安演芸大会開催。之に関しては清水総代人の労苦に負ふ処絶大なる物あり。聴衆約千名公民館埋る。

昭和三十二年

四月八日 月曜日 晴

夜公民館にて楠原氏(楠原三之助)顕彰会発起人打合会に出席。

六月四日 火曜日 晴

海面埋立保証金の問題で呼出しがあり、公民館の談合会に出席。海苔業者は二百万円、網業者は三十万円だが之を五十万円にすると云ふのである。一体このブームが将来町民に如何に影響してくるであらう。

八月十五日 木曜日 晴たり曇たり

海面埋立仮調印、午後四時迄公民館で行はれた。八幡が歴史的転換を来す第一歩。

九月十五日 月曜日 曇

今日は公民館で漁業協同組合の臨時総会を開催。愈々埋立補償の額を了承するに至つた。総額式拾億五千万円と云ふ。個人最高額が二百四万円と云ふ。網業者でも四十一万五千円と云ふ。分割払となると云ふも、先以て補償金ブームが到来。

十月二十六日 土曜日 小雨一時曇

境内で余興舞台、公民館で商品展示会を市原町商工会で開催する。雨天の為、余興は素人演芸のみ。

昭和三十三年

四月三日 木曜日 小雨後曇

市川石三翁神葬祭準町葬により公民館にて執行。午後一時廿分開式、自民党幹事長川島正次郎氏葬儀執行委員長。会する者柴田県知事を始め五百人。助勤、時田(大宮神社・時田謙祐宮司)・金子茂雄(横橋三社神社宮司)両氏。

四月五日 土曜日 晴後曇夜小雨

始関伊平後援会設立総会が公民館で催された。佐藤栄作自民党総務会長を始め御歴々の演説。

十月十二日 日曜日 晴

菅野県議、自民党県支部幹事長就任祝賀式、午前十時公民館に於て開催。

十二月十八日 土曜日 晴

中学校体育館が建設以来安藤PTA会長を始め、森校長・根本PTA連合会長の逝去に伴う葬祭を執行し、凶事の殿堂化したため清祓式を修して欲しいとの申し入れがあったので、午後一時半之を行う。

市原市八幡1125-3 (旧公民館敷地) について

明治37年6月1日

社司石原常春・社掌市川邦道・総代連署で、境内編入願を内務省及び農商務省に提出する。

1055番地の一部
1056番地の一部
1058番地
1125番地の一部(該当地)

明治37年10月1日

内務大臣・農商務大臣より境内編入の許可
※許可証紛失

昭和23年4月26日

境内地(5678坪)の譲与申請
1055-2
1056-2
1057
1058

昭和23年5月24日

該当地(1125-3)の譲与申請(再度申請)
明治37年10月1日内務大臣・農務大臣の申請について、市原町役場の台帳と一致することの証明証を添付

昭和26年5月9日

境内地(5678坪)の譲与許可
1055-2
1056-2
1057
1058

昭和38年6月8日

該当地(1125-3)と社社の境界合意
該当地は大蔵省所有地
※公民館建設のため境界合意